

令和 3 年度
東京国立博物館文化財修理報告 23



東京国立博物館

はじめに

本書は、令和3年度に完了した総計24件の本格修理の概要について報告するものである。その内訳は、絵画3件、書跡2件、染織1件、考古7件、東洋絵画2件、東洋書跡2件、東洋漆工1件、東洋染織1件、東洋考古5件である。

修理にあたっては館内外合わせて11工房の協力を得た。なお、令和3年度に開始し、令和4年度に継続している修理（令和5年3月31日までに完了したものを含む）41件については巻末に一覧で示した。

また、当館では対症修理にも積極的に取り組んでおり、令和3年度の実施件数は516件である。本報告書にはその詳細は省略するが、修理記録は本格修理同様に作成し、保管している。

文化財の修理は、将来予想される再修理に備え、かつ修理前の状態を後世に伝えるために修理記録を作成し、管理する必要がある。また、修理仕様や修理に際して見出された新知見は広く公開すべきものとする。本書が文化財保存修理に携わる方々のお役に立てば幸いである。

令和5年3月 東京国立博物館

Foreword

This publication is an overview of full-scale conservation works completed at the Tokyo National Museum during FY2021 on a total of 24 objects: three Japanese paintings, two works of Japanese calligraphy, one Japanese textile object, seven Japanese archaeological objects, two Asian paintings, two works of Asian calligraphy, one piece of Asian lacquerware, one Asian textile object, and five Asian archaeological objects.

A total of eleven conservation studios, including both internal and external contractors, were involved in these conservation activities. A list of the 41 additional objects for which treatment began in FY2021 and continued into FY2022 is included at the end of this publication.

Tokyo National Museum has also been actively conducting remedial treatments, with 516 objects treated during FY2021. While not featured in this publication, details of these activities are fully documented and catalogued in the Museum's conservation records.

Conservation works conducted on cultural properties need to be appropriately documented and managed to prepare these properties for future treatments, and to inform future generations of their conditions before treatment. Furthermore, the Tokyo National Museum believes that the conservation methods used and the new findings obtained from these conservation activities should be made widely available. We hope that this publication will be useful for everyone who engages in the conservation of cultural properties.

March 2023

Tokyo National Museum

目 次

はじめに				1
Foreword				3
令和3年度 修理作品				
通番	名称	作者等・出土地	員数	番号
【絵画】3件				
1	● 普賢菩薩像		1 幅	A-1 8
2	◎ 月次風俗図屏風		8 曲 1 隻	A-11090 14
3	扇面散図	葛飾北斎筆	1 幅	A-12347 19
【書跡】2件				
4	山城切（秋興）	伝藤原定頼筆	1 幅	B-3171 22
5	山城切（春興）	伝藤原定頼筆	1 幅	B-3172 24
【染織】1件				
6	羅道場幡	正倉院伝来	1 流	I-335 26
【考古】7件				
7	方頭大刀	奈良県桜井市出土	1 口	J-8897 31
8	鉄板	奈良県桜井市出土	1 枚	J-8898 34
9	深鉢形土器	栃木県大田原市黒羽向町 川西小学校遺跡出土	1 個	J-22780 36
10	壺形土器	栃木県大田原市黒羽向町 川西小学校遺跡出土	1 個	J-23174 38
11	甕形土器	北海道江別市いずみ野旧町村農場出土	1 個	J-23765 40
12	埴輪 帽子を被る男子	栃木県真岡市亀山出土	1 個	J-21576 42
13	S 字状口縁甕	大阪府柏原市・藤井寺市 船橋遺跡出土	1 個	J-38859-16 46
【東洋絵画】2件				
14	第二十三天聖尊者図軸		1 幅	TA-40 47
15	五馬図卷	李公麟筆	1 卷	TA-694 50
【東洋書跡】2件				
16	草書尺牘卷	道元文信筆	1 卷	TB-1215 54
17	行書三帖卷	米芾筆	1 卷	TB-1458 58
【東洋漆工】1件				
18	雲龍螺鈿机		1 基	TH-388 62

【東洋染織】1 件

19	◎ 九条袈裟 紫地唐草文様印金／ 草花文様緯絲	伝春屋妙葩所用	1 肩	TI-421	66
----	----------------------------	---------	-----	--------	----

【東洋考古】5 件

20	灰陶短頸壺	遼寧省営口市 蘆家屯 3 号磚墓出土	1 個	TJ-2976	70
21	灰陶奩	遼寧省営口市 蘆家屯 3 号磚墓出土	1 合	TJ-2979	71
22	灰陶盒	遼寧省営口市 蘆家屯 3 号磚墓出土	1 合	TJ-2981	72
23	灰陶蓋	遼寧省営口市 蘆家屯 3 号磚墓出土	1 口	TJ-3006	73
24	灰陶竈	遼寧省営口市 蘆家屯 3 号磚墓出土	1 基	TJ-5824	74

令和 4 年度	継続修理作品一覧				76
---------	----------	--	--	--	----

令和 3 年度	对症修理作品一覧				82
---------	----------	--	--	--	----

List of Works Conserved in Fiscal Year 2021					101
---	--	--	--	--	-----

凡 例

1. 本書は、令和3年度に修理を実施した東京国立博物館保管の作品について、その概要を収録した報告書である。
2. 当該年度に修理が未了で翌年度に継続する作品は76頁の表にまとめて示した。
3. 令和3年度の修理対象品は日本および東洋などの美術、工芸、考古の各分野である。本書では各々の分野にしたがって、絵画、書跡、染織、考古、東洋絵画、東洋書跡、東洋漆工、東洋染織、東洋考古の順に掲載した。
4. 本文の表記は指定、作品名称、列品番号、員数、作者等・出土地、時代、品質、法量（単位はcm、修理前・修理後を併記）、作品の概要および修理前の状態、修理仕様、修理で得られた新知見・特許事項、修理者、修理価格、修理期間とした。修理者は、会社の場合は代表者の名前を、個人の場合は個人名を記した。また、作品名称の前に付した◎は国宝、○は重要文化財を示す。
5. 絵画、書跡、歴史資料などの修理仕様の中で、新糊とは小麦澱粉糊、古糊とは新糊を10年程度涼暗所で保存した糊を示す。
6. 掲載の写真は、修理前および修理後の一部の写真については、当館列品管理課が、修理中を含むその他の写真は各修理工房が撮影した。
7. 英訳は当館学芸企画部企画課国際交流室君波妙子が担当した。
8. 本書の編集は、当館学芸研究部保存修復課保存修復室と、同学芸企画部企画課出版企画室が担当した。

令和 3 年度 修理作品

品 質 絹本着色

法 量 修理前 全体 縦 272.0 横 97.0
 本紙 縦 158.9 横 74.4
 修理後 全体 縦 269.1 横 97.0
 本紙 縦 159.4 横 74.4

修理作品の概要

掛幅装。木軸。縦長の画面に、華蓋から種々の華が降り注ぐなか、『観普賢經』に説かれる三化人を頭上に乗せた六牙の白象に乗り、やや俯いて合掌し画面向かって左方へ向かう普賢菩薩を描く。菩薩の白色の肉身は部位によって細太の変化をつけた、細くしなやかな淡墨線で象られ、そこにごくわずかに施された淡い朱の暈によって肉身の立体感と『観普賢經』に説かれる「白玉身」とが見事にあらわされている。そうした繊細な描線や、緑や青の寒色を主体にした色感には北宋様式との関係が指摘されている。その一方で、精緻な截金文様や銀の効果的な使用には 12 世紀後半の日本の美意識がよくあらわれている。

修理前の状態

本紙は、折れ、汚れ、付着物などが多数みられ、絵具が摩耗、剝離し、折れ山が亀裂、剝離に進行していた。本紙随所に不適切な方法による補修絹、補修紙があてられており、本紙の剝落、鑑賞性の低下を生じさせていた。また旧補修絹への補彩や本紙へのオーバーペインティングもみられた。表装裂も強い折れ、汚れなどがみられた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影、赤外線撮影、パッチテストを行なった。

2. 解体

掛幅装を解体し、表装裂などを取り外した。

3. クリーニング、剝落止め

表面の埃汚れを柔らかな毛の刷毛で払った。牛膠水溶液 0.5%（重量比。以下同）とフノリ抽出液の混合液を画面に塗布し、化繊紙ごしに吸い取り紙に汚れを移し取った。

4. 旧総裏紙の除去

裏面より室温のろ過水（粒状活性炭カートリッジフィルターに溶解ガスや有機物を吸着して鉄分、塩素などを除去した水。以下同）を塗布し、旧総裏紙を除去した。

5. クリーニング

室温のろ過水とフノリ抽出液の混合液、あるいは牛膠

水溶液（0.5%）とフノリ抽出液の混合液を絵具の状況によって使い分けて本紙表面に塗布し、化繊紙ごしに吸い取り紙に移し取った。絵具層に固着した付着物は無理せず残した。

6. 剝落止め

絵具の本格的な定着を図るため、剝落止めを行なった。絵具の状態に合わせ牛膠水溶液（0.5～2.0%）を塗布した。絵具の状況を確認しながら繰り返し行ない、十分な乾燥期間をおいた。

7. 絵具の養生

彩色部分の必要箇所、フノリ抽出液を用いて化繊紙を貼りあて養生した。

8. 表打ち

旧裏打紙除去の際の本紙料絹および彩色の保護のため、表面よりフノリ抽出液を用いて化繊紙、および楮紙で表打ちして画面を養生した。

9. 旧増裏紙、旧折れ伏せ紙の除去

裏面より室温のろ過水を塗布し、旧増裏紙、旧折れ伏せ紙を除去した。

10. 旧肌裏紙の除去

旧肌裏紙は一般的なものより厚い紙で、色材を混ぜた糊（以下、色糊）で肌裏打ちがされていた（特記 1）。旧肌裏紙に裏面より室温のろ過水をごく少量、小面積ずつ塗布し、段階的に相剝ぎして薄い層に残した後、色糊層がまばらにならないよう、色糊を残しながら旧肌裏紙の繊維を除去した。

11. 色糊の調整

虚空部分の色糊は可能な限り均一になるように調整し、彩色部分の色糊は彩色層に安全な範囲で除去した。

12. 旧補修絹の除去

旧補修絹は複数種あり、可能な限り除去した。劣化して本紙と一体化した旧補修絹は、本紙との重なり部分を薄く調整し、膠水溶液で本紙に接着して残した。

13. 旧補修紙（白い旧補修紙）の除去

白い絵具が厚く塗られ帯状に裁断された紙が裏面からあてられていた。旧補修紙は除去し、絹の間に付着した絵具も本紙に安全な範囲で除去した。

14. 旧修理より古い時代の肌裏紙および旧補修紙の除去

透過光作業台上で少量の加湿を行ない、旧修理より古い肌裏紙および旧補修紙を本紙に安全な範囲で除去した。接着力が強い箇所は紙の繊維をわずかに残した。補筆のある旧補修紙は残した。

15. 本紙裏面の記録調査

本紙裏面に裏彩色が確認されたため、顕微鏡、透過赤外線撮影、蛍光 X 線測定による本紙裏面の調査を行なった。

16. 本紙裏面からの剝落止め

本紙裏面全体に、牛膠水溶液 2% を塗布し剝落止めを行なった。

17. 肌裏紙の準備

新規肌裏紙は、天然染料にて染色して色合いを調整した楮紙（長谷川聡製、提灯判、3.1 匁）を準備した（特記 2）。

18. 補修絹の準備

本紙料絹の組織に近い画絹を選択し（特記 3）、風合いを合わせ全体的に糸が平滑になるよう、砑打ちを施した。電子線にて人工劣化させた後、天然染料と絵具にて染色し、色合いを調整した。

19. 補絹①

大面積の欠損部の形通りに切り抜いた補修絹を、本紙の絹目に合わせて裏面からはめた。

20. 肌裏打ち

新糊を用い、楮紙にて肌裏打ちを行なった。

21. 表打紙の除去

表打紙に室温のろ過水を少面積ずつ塗布し、8 のフノリを吸い取り紙で除去した後、表打紙を除去した。

22. 移動した本紙片の貼り戻し

頭光右上部に付着した本紙片は、蛍光 X 線調査により推定された箇所には貼り戻した（特記 4）。その他の移動した本紙片はそのままとした。

23. オーバーペインティングの除去

欠損部周囲の本紙にはみ出た旧補彩部分に筆で湿りを与え、本紙に負担のかからない範囲で、吸い取り紙に移し取った。

24. 表面からの色糊の除去

裏面から除去できなかった、小さな欠損部に詰まった色糊を、本紙の安全のため新規肌裏打ち後に表面から除去した。

25. 補絹②

本紙欠損部と本紙周りに、欠損部の形通りに切り抜いた補修絹を絹目に合わせて表面から新糊ではめた。

26. 増裏打ち①

古糊を用い、美栖紙（昆布きよの製）にて 1 回目の増裏打ちを行なった。

27. 折れ伏せ

今後の折れが予想される箇所に細く裁断した楮紙（長谷川聡製）の帯を裏面からあて、折れ伏せを行なった。

28. 増裏打ち②

古糊を用い、美栖紙（上窪良二製）にて 2 回目の増裏打ちを行なった。

29. 補彩①

新規補絹箇所に地色合わせの補彩を施した。

30. 表装裂の準備、裏打ち

主題や時代性を考慮し、仏画仕立て三段表具から仏画仕立て二段表具に表装形式を変更した。作品に相応しい表装裂を選定し、天然染料にて染色した（特記 5）。

新調の表装裂に、新糊を用い楮紙にて肌裏打ちを、古糊を用い美栖紙にて増裏打ちを行なった。風帯を縫製した。

31. 付け廻し

柱部分の本紙の摩耗や欠失を防ぐため、本紙周囲に施した補絹部分に表装裂地をのせ、新糊を用い付け廻した。画面上部は元の位置から約 6 mm 外側で補修絹を付け廻した。

32. 中裏打ち

古糊を用い、美栖紙（昆布きよの製）にて中裏打ちを行なった。

33. 総裏打ち

古糊を用い、上巻絹と宇陀紙（福西正行製）にて総裏打ちを行なった。数回の返し張りを行ない十分乾燥させた。

34. 補彩②

補絹箇所に補彩を施した。

35. 軸首、鑲座の作製

作品に合わせた透かし彫りの金軸と鑲座を作製した。

36. 仕上げ

軸木、八双、紐を新調し、35 を取り付け、掛幅装に仕立てた。

37. 収納

桐製太巻添軸は再使用の収納箱に納まる範囲で旧太巻芯より径を太く新調した。新調した羽二重の包裂に包んで、汚れを拭き取った再使用の箱に納入した。外箱の紐は新調の真田紐に付け替え、内箱、外箱に金茶地無地裂にて蓋覆いを取り付けた。外箱は中性紙布貼帙を新調して納めた。

38. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

1. 色糊

過去の修理において色糊を用いた肌裏打ちがされたため、本紙裏面全体に色糊が厚く不均一に付着していた。絹目に詰まった色糊の除去は劣化した料絹を傷める危険性があり、また除去しきれない色糊の影響により鑑賞性の低下が懸念されたため、本修理では虚空部分の絹目に詰まった色糊が取れないように旧肌裏紙を除去した。また、色糊の層が厚い箇所は、料絹に安全な範囲で薄く調整した。蛍光 X 線測定により、鉄（Fe）と鉛（Pb）が検出された。

2. 新規肌裏紙の色

色糊が付着していない、虚空部分の本紙と旧補修絹が重なった箇所や、色糊の層が薄い箇所では、新規肌裏紙の色が画面に視覚的な変化を招く懸念があったため、新規肌裏紙は色糊に近い色とした。

3. 本紙料絹と新規補修絹

三副一鋪の本紙料絹は糸の太さや織組織にばらつきがあり、中央の料絹は上部～中央部に比べて下部の緯糸が太い傾向にあった。また虚空部分の料絹は摩耗や絵具による焼けなどで絹が薄くなっていたのに対し、彩色部の料絹は保存状態が比較的良好であった。本修理では虚空部分の料絹の中で比較的保存状態が良い箇所を参考を選択した1種類の補修絹を、周囲に合わせて厚みを調整して用いた。

4. 移動した本紙片の貼り戻し

頭光右上部に付着した本紙片は光背の金線の欠損部分にあり、また色が周囲と明確に異なることから、別の場所から移動したものであると考えられた。この本紙片および光背部周囲5箇所の蛍光X線調査を行なったところ、本紙片から銀（Ag）と鉄（Fe）が多く検出されたため、非常に近い数値が検出された頭光の向かって右内側から移動したと推定し、適切な箇所に貼り戻した。

5. 表装裂

同時代の平安期仏画の表装を参考に、総縁に薄紫地雲

紋綾、中廻しに神護寺経帙縁裂から復元された紅地唐花鳥襷文錦を用いた。総縁は白地の綾を天然染料にて染めて砧打ちを施し、旧表装の印象を踏襲した。軸首は延暦寺蔵「宝相華蒔絵経箱」と普賢菩薩の裳に描かれた団花文を元に図様を起こし、主題や時代性に合わせた透かし彫りの金軸を新調した。

参考文献

東京国立博物館監修『国宝 普賢菩薩像 令和の大修理 全記録』東京美術、2023年（刊行予定）

修理者 株式会社 半田九清堂

代表取締役 半田昌規

担当者 半田昌規、半田幾子、土屋三恵、宇和川史彦、山田知水、下田純平、山本一來、佐々木立美、伊東静穂

修理価格 13,675,200円（紡ぐプロジェクト寄附金）

修理期間 令和元年6月27日より令和4年3月31日



修理前 全体



修理後 全体



修理前 本紙



修理後 本紙



①解体



②剥落止め



③表打ち



④旧肌裏紙の除去



⑤色糊の除去



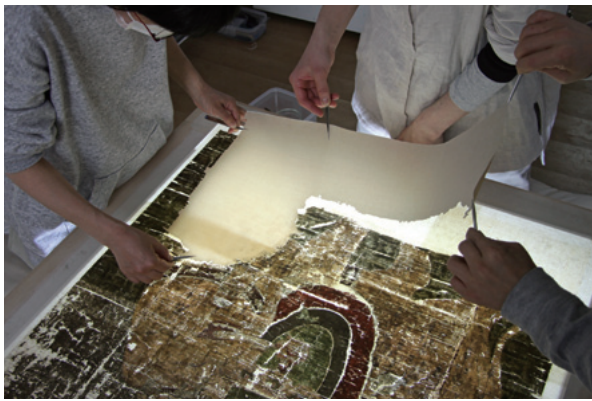
⑥旧補修紙除去



色糊除去前



色糊除去後



⑦補絹（裏面）



⑧肌裏打ち



⑨補絹（表面）



⑩増裏打ち



⑪折れ伏せ



⑫補彩



⑬総裏打ち



⑭仕上げ

品質 紙本着色

法量	修理前	全体	縦 115.0	横 413.0
	本紙	第1扇	縦 61.1	横 42.1
		第2扇	縦 61.2	横 42.4
		第3扇	縦 61.3	横 40.5
		第4扇	縦 62.0	横 42.1
		第5扇	縦 61.8	横 42.3
		第6扇	縦 61.6	横 40.5
		第7扇	縦 61.8	横 40.1
		第8扇	縦 61.8	横 40.1
修理後	全体	縦 115.0	横 413.0	
	本紙	第1扇	縦 61.1	横 42.1
		第2扇	縦 61.2	横 42.4
		第3扇	縦 61.3	横 40.5
		第4扇	縦 62.0	横 42.1
		第5扇	縦 61.8	横 42.3
		第6扇	縦 61.6	横 40.5
		第7扇	縦 61.8	横 40.1
		第8扇	縦 61.8	横 40.1

修理作品の概要

8曲の金地屏風の各扇に、本紙を1枚ずつ貼り込んだ押絵貼形式の屏風。8図からなる画面には、年中行事や祭礼を題材に、公家、武家や庶民などあらゆる階層の季節や月ごとの風俗が描かれる。右端第1扇から順番に、正月の羽根突き、毬打および松囃、第2扇に花見、第3、4扇に田植、第5扇に5月に催行される賀茂競馬と衣更（呉服店の店頭）、第6扇に犬追物および蹴鞠、第7扇に富士巻狩、第8扇に春日社の祭（春日若宮御祭）および雪遊びを描く。四季や12か月の行事を描く月次絵の伝統を継承しながら、近世初期の風俗画に通じる主題やモチーフを織り込むのを特徴としている。

修理前の状態

屏風の骨が歪み、向かい合う扇同士の画面が当たっており、絵具表面に擦れている箇所があった。本紙にはまくれや亀裂、紙片のずれなどの損傷、広範囲な絵具の粉状化、汚れ、カビ痕がみられた。裏打紙露出箇所には加筆があり、金箔台紙には亀裂、欠損、繕いが多くみられた。襲木に擦れ、あたり傷、歪み、漆剥がれ、木地の露出がみられた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影や図面作成を行なった。

2. 解体

屏風装を解体し台紙ごと本紙を取り外した。

3. 本紙絵具層の剥落止め

台紙ごと仮張りし、絵具層に剥落止め（牛膠1.5～3.0%）を行なった。

4. 解体

本紙を台紙より取り外した。

5. 仮裏打ち

台紙から外した本紙に、楮紙にて仮裏打ちを行なった。

6. 本紙絵具層の剥落止め

仮裏打ちにより平滑になった本紙に、再度剥落止め（牛膠1.5～3.0%）を行なった。

7. 調査

本紙が安定し平滑になった状態で透過赤外線撮影による調査を行なった。

8. 表打ち

フノリ水溶液と養生紙を用いて表打ちを行なった。

9. 解体

乾式肌上げ法にて本紙の旧肌裏紙を除去した後に、旧補修紙の除去を行なった。

10. 裏面調査

本紙裏面の状態を写真などで記録した。

11. 補填

料紙の欠失部分に補紙（雁皮紙）を施した。

12. 肌裏打ち、裏打ち

新糊を用い、染色した楮紙（鈴木竹久製、2.7匁）にて本紙の肌裏打ちを行ない、2回目は胡粉入り楮紙（井上稔夫製、3.0匁）、3回目は楮紙（江渕栄貫製、3.0匁）にて裏打ちを行なった。

13. 台紙、唐紙および表装裂地の新調

新調する台紙、唐紙（唐長製）および表装裂地を準備した。金箔台紙は、雁皮紙（鳥の子紙、福井やなせ和紙製）に金箔を貼り、古色加工を行ない、色調を調整して使用した。

14. 補彩

新しく補填した補修紙に、周囲の色調に調和する補彩を行なった。

15. 接合・組み立て

総柄納組隅留で作製した下地に楮紙（江渕栄貫製、久保田彰製、鈴木竹久製）などによる6種8層の下張りを施し、十分乾燥させた。下張りの完了した下地に唐紙、台紙および本紙を貼り込んだ。新調した裂地を貼り込んだ。

16. 仕上げ

襲木および飾り金物は再使用して取り付け、屏風装とした。

17. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

1. 本紙繊維

本紙繊維の分析調査（修理工房にて実施）から雁皮と判明した。

2. 旧裏打紙の墨書

旧裏打紙は本紙と同寸で2層構造をしており、各扇の旧裏打紙（2層目）上部中央に第1扇からそれぞれ「一」「二」「三」「四」「五」「六」「七」「八」とあり、各扇の並び順になっていた。旧肌裏紙のほぼ同じ位置には「二」「七」「四」「三」「五」「六」「一」「八」という順で墨書があったことから、旧修理で各扇の並びに変更が行なわれたと考えられる。また、旧裏打紙（2層目）には本紙周囲の小筋の銀が付着しており1回処置された痕跡のみのため、前回設置されたと考えられる。第5扇と第6扇の旧肌裏紙には「一雲昏」と数文字（判読できず）の墨書が確認された。

3. 絵具の付着

本紙裏面の旧肌裏紙や補修紙に絵具の付着が確認された。これは他の扇の絵具とみられ、対応する扇は痕跡から判別することができた。対応する扇は、痕跡から判断された（表1）。

絵具が移った要因には、過去に本紙が濡れた状態で重ねられたことが推測される。墨書と絵具の付着箇所はそのままの保存は困難だったため、RAW画像を撮影して記録し、可能な限り形状を維持して剥がしたのち裏打ちを行ない、中性紙に挟んで別保存とした。

4. 旧補修の除去

旧補修は、損傷ごとに①料紙の欠失箇所、②欠失箇所の旧補修紙や旧肌裏紙に補筆、補彩がある箇所、③絵具が剥落し料紙に直接補筆、補彩がある箇所、④表面の付着物などに分類して損傷図面の作成を行なった。これをもとに、料紙の有無による旧補修の除去方針について、主に②と③の状態が混在している箇所（第6扇左下部の二人の人物が座る広縁の欠失箇所とその下の地面など）の画面の統一感の維持を検討した。その結果①の旧補修紙および旧肌裏紙は除去し、②については旧補修紙の糊代は最小限に調整し、接着が弱い箇所は再接着して補強した。旧肌裏紙に補彩されていた箇所は欠失に合わせて調整した。

5. 料紙の紙継ぎ状の紙片

第4扇の上辺、第5、6扇の下辺（第8扇の下辺は裏面から確認）に紙継ぎのような紙片が継がれており、

補修紙か料紙かを確認するため、旧肌裏紙除去時に繊維分析を行なった。その結果、第5、6扇の紙片は料紙と同様に雁皮紙、第4、8扇の紙片は料紙とは異なる楮紙と判明した（表2）。

第4扇下辺の紙片は補筆があることなどから旧補修紙とみられる。第8扇の紙片は欠失がなく裏打紙か旧補修紙とみられる。第5、6扇の紙片は料紙と同じ雁皮で描写もあることから料紙の一部と判断した。分析結果と旧補修の除去方針を踏まえ、第4扇上辺の紙片は糊代の重なりを調整して残置し、第5、6扇各下辺の紙片は接着の強化に留めた。第8扇下辺の紙片は除去した（表2）。

表2 第4、5、6、8扇の料紙継ぎ状の紙片と繊維分析結果

設置箇所	紙質	描写の有無	備考
第4扇上辺	楮	補筆補彩あり	補修紙
第5扇下辺	雁皮	描写あり	料紙の一部
第6扇下辺	雁皮	描写なし	料紙の一部
第8扇下辺	楮	裏面に設置	裏打紙か補修紙

6. 図様の改変

修理前の反射赤外線画像や透過X線画像による調査から、絵具層の下に図様の改変があることは確認されていたが、本紙と裏打紙の状態で透過赤外線画像撮影を行ない、主に以下の図様の改変が確認された。

第2扇：右下部の霞と土坡の絵具層の下に酒宴を楽しむ7人の人物の描線が確認された。

第3扇：右下部の樹木の絵具層の下に水車が認められ、中央左寄りの牛と鋤を持った人物の上部の絵具層下に、人物と農具のような描線が確認された。

第6扇：広範囲の絵具層の下に改変が認められ、土俵周辺には多数の騎乗の人物や犬の描写が確認された。建造物や土俵は著しく改変されており、下部の樹木の枝や人物の衣服にも改変が確認された。

第7扇：富士山の右側の絵具層の下に同様の富士山の描線が確認された。広範囲の絵具層の下に巻狩を行なう騎乗の人物や鹿などが多数確認された。

7. 本紙周囲の小筋

修理前には本紙と旧台紙の間に約3～4mm幅の銀色の小筋が廻されていた。この黒い銀色は蛍光X線分析（京都国立博物館保存科学室降幡順子室長により実施）から銀（Ag）が検出された。小筋は黒色に変色しており、Agの変色とみられるが、本紙への影響は確認されなかった。しかし、旧裏打紙に小筋の痕跡はなく、制作当初の装丁ではなく旧修理の設置であると確認されたため、保存上の安全性を確保するうえでも小筋は廻さない装丁にすることになった。

8. 紙蝶番（羽根）の取り付け方法

屏風の羽根は左右並んだ扇の一方の前面ともう一方の後面に紙を張り渡して一段の蝶番を作り、左右の貼り位置を交互に変えながら数段の蝶番を貼り、その際に

左右の並びを揃えることが多い（修理工房でも通常はこの方式）。本作品は奇数面と偶数面で左右の並びが逆に設置された形式となっていた。屏風の羽根は『表具』（東京表具経師文化協会 職業指導部『表具』東京表具経師文化協会、1970年、165頁）によると「4曲以上の時は羽根が骨の左右で、表と裏とに付くことになるが、各段とも左右の羽根が平行に並ぶものを平行羽根と称し、左右段違いに羽根を付けるものを交互羽根と名付け」とあることから、本作品で用いられた

のは「交互羽根」とみられる。そのため、修理前の装丁を尊重し同様の形式により羽根の取り付けを行なった。

修 理 者 株式会社 岡墨光堂

代表者 岡岩太郎

担 当 者 岡松一雲、金省我、山崎和泉

修理価格 10,157,149 円（本格修理費）

修理期間 令和元年 10 月 17 日より令和 3 年 9 月 30 日



修理前 全体 第1扇～第4扇



修理後 全体 第1扇～第4扇



修理前 全体 第5扇～第8扇



修理後 全体 第5扇～第8扇



①解体



②剥落止め



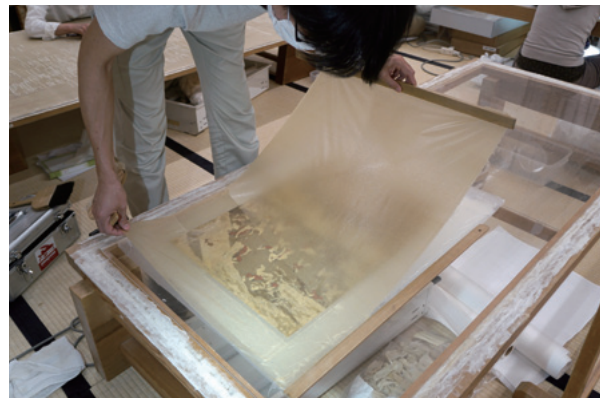
③仮裏打ち



④表打ち



⑤旧補修紙除去



⑥肌裏打ち



⑦補彩



⑧接合・組み立て

品 質 絹本着色

法 量 修理前 全体 縦 149.8 横 86.8
本紙 縦 51.0 横 71.2
修理後 全体 縦 140.4 横 86.6
本紙 縦 51.0 横 71.3

修理作品の概要

葛飾北斎は、江戸時代後期に活躍した日本を代表する浮世絵師。作画歴は70年に及び、錦絵だけでなく肉筆画・版本も数多く手がけた。

「扇面散図」は北斎最晩年、90歳の作品。重ね置かれた5本の扇を描く。藍地に牡丹、白地に朝顔、濃紺地に金泥の漢詩をそれぞれあらわした扇3本と、赤、緑色の料紙を用いた2本が配される。扇の地紙を、折りによる光の明暗を意識して色調を変えて立体的に描いている。極細密な描法と、背景から浮き上がるような不思議な立体表現は、北斎最晩年の特徴であり、老いても衰えることのなかった作画への探求心がうかがえる。

修理前の状態

本紙全体に横折れがあり、折れ山の擦れが料絹の切れに進行する危険があった。絵具の剝落がみられ、接着力が弱くなっていた。肌裏紙の浮きがみられ、接ぎ手の段差が本紙に影響し、裏打ちが不安定な状態にあった。付着物やしみなどの汚れがみられた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の状態を写真や図面などで記録した。

2. 解体

掛幅装を解体し、表装裂地から本紙を取り外した。

3. 汚れ除去

ろ過水を本紙全体に噴霧し、汚れの除去を行なった。

4. 仮裏打ち

フノリと養生紙を用いて仮裏打ちを施した。

5. 剝落止め

兎膠水溶液（濃度1.5～3.0%）にて絵具層の強化を行なった。

6. 表打ち

フノリ水溶液と養生紙を用いて表打ちを行なった。

7. 旧肌裏紙の除去

乾式肌上げ法にて本紙の旧肌裏紙を除去した。

8. 裏面調査

本紙裏面の状態を通常光による写真だけでなく、顕微鏡画像、赤外線画像（透過光、反射光）を撮影して記録した。

9. 補絹

本紙欠失箇所にも本紙と同質の補修絹を調整し、補絹を施した。

10. 肌裏打ち、増裏打ち

新糊を用い、染色した楮紙（鈴木竹久製、3.2匁）にて本紙の肌裏打ちを行なった。その後、古糊と美栖紙（上窪良二製）にて増裏打ちを行なった。

11. 折れ伏せ

折れの発生している箇所、および今後折れの発生が予測される箇所に、細く切った楮紙（鈴木竹久製）と新糊を用いて折れ伏せ入れを行なった。

12. 接合（付け廻し）

強化・調整が終わった本紙および表装裂地を古糊と新糊を半量ずつ混ぜ合わせた糊を用いて接合し、表装の形に付け廻しを行なった。

13. 総裏打ち

古糊を用いて、宇陀紙（福西正行製）にて総裏打ちを行なった。総裏打ち後、仮張りに張り十分に乾燥させた。

14. 補彩

新しく補填した補修絹に、周囲の色調に調和する補彩（絵具）を行なった。

15. 仕上げ

新調した軸首、発装、中軸、紐などを取り付け、掛幅装に仕上げた。

16. 収納

桐製太巻添軸および桐製印籠箱を各新調し、羽二重の包裂に包んだ本紙を納入した。

修理で得られた新知見・特記事項

1. 旧肌裏紙

墨色に染色した4枚の楮紙が使用されていた。旧肌裏紙の虫損は本紙料絹や増裏紙には貫通しておらず、虫損があった紙を用いたと考えられる。

2. 裏彩色

旧肌裏紙除去後に彩色箇所の裏面を中心に顕微鏡により調査を行なったが、裏彩色は確認できなかった。

3. 新規肌裏紙の色調

旧肌裏紙は墨色の楮紙4枚が継がれており、継目が鑑賞の妨げとなっていたため、新規肌裏紙は1枚の楮紙で行なうことにした。また、旧肌裏紙の墨色により本紙はやや暗い印象であったため、印象は大きく変えずに同様の色調としながらも、明るい印象にすることが検討された。肌裏紙の色調を明るくすることで、料絹の色斑が目立ちすぎないように、旧肌裏紙の明度の中間の色調に調整した墨色にすることとした。

4. 接合（付け廻し）方法

本紙と表装裂地の付け廻しは左右、および下辺が突付けの状態、上辺は本紙の上に裂がのせられていた。表装裂の解体後、本紙の下辺に過去の糊痕があり、付け廻し位置が変更されていたことが確認され、本紙下部を広く見せるために変更されたと推測される。協議により、付け廻しの見え方は修理前を踏襲することとし、本紙周囲に電子線劣化絹にて補絹を行ない、糊代

にして付け廻しを行なった。

修 理 者 株式会社 岡墨光堂

代表者 岡岩太郎

担 当 者 修理：宮林綾子

補彩：小笠原具子

修理価格 3,011,381 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月14日より令和3年12月23日



修理前 全体



修理後 全体



修理前 本紙



修理後 本紙

品 質 紙本墨書

法 量 修理前 全体 縦 118.2 横 42.3
本紙 縦 25.8 横 27.9
修理後 全体 縦 119.0 横 42.8
本紙 縦 26.0 横 28.3

修理作品の概要

『和漢朗詠集』巻上より「秋興」の箇所、断簡である。もとは綴葉装の冊子本で、昭和 14 年（1939）に京都で分割されたため、名称は京都（山城国）にちなんで付けられた。漢詩部分（漢字）は抑揚の強い行書で揮毫され、和歌（仮名）は三文字ほどの連綿を駆使した筆力のある仮名が特徴的である。筆者は平安時代中期に歌人・能書として活躍した藤原定頼（995～1045）と伝えられるが、実際は、平安時代末期、12 世紀の書写と推測される。

修理前の状態

本紙はとても薄く、裏打紙の接着力が低下し、糊離れや浮き、毛羽立ちが確認された。かつての相剥ぎの痕か、糊焼けかは不明であるが、本紙裏面から表面に及ぶ汚れがみられた。上下の取り合わせが主張しすぎて、本紙鑑賞の妨げとなっていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. ドライクリーニング

表面に付着した埃を柔らかい筆などで払い除去した。

3. 定着の確認

墨書、朱点の定着は、剥落なども確認されず安定していたため剥落止めは行なわなかった。

4. 解体

掛幅装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を除去した。

5. クリーニング

本紙表面にろ過水を噴霧し、下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸収させる方法でクリーニングを行なった。

6. 旧肌裏紙除去

常温抽出フノリ水溶液とレーヨン紙を用いて本紙表面を養生して透過台に張り込み、部分的に加湿しながら旧肌裏紙、旧補修紙を除去した。

7. 補紙

欠損部、本紙四辺など必要な箇所に本紙料紙に合わせた補修紙と新糊を用いて裏面から補紙を行なった。

8. 肌裏打ち

本紙の色調に合わせて染色した楮紙（鈴木竹久製、2.2 匁）と新糊を用いて肌裏打ちを行なった。

9. 増裏打ち

美栖紙（上窪良二製）と古糊を用いて増裏打ちを行なった。

10. 折れ伏せ

折れが生じた箇所、今後折れが生じそうな箇所にごく細く切った楮紙（鈴木竹久製）の帯にて折れ伏せを行なった。

11. 表装裂の調整

再使用する表装裂をクリーニングし、裂の乱れなどを整えたのち、欠失箇所に補修絹を補填し、肌裏打ち、増裏打ちを行ない仮張りした。新調する上下の裂も同様に肌裏打ち、増裏打ちを行ない仮張りした。

12. 付け廻し

本紙と表装裂を三段表具の形に付け廻した。

13. 中裏打ち

美栖紙と古糊を用いて中裏打ちを行ない仮張りした。

14. 総裏打ち

上巻絹、宇陀紙（福西正行製）と古糊を用いて総裏打ちを行ない、表張りをした。

15. 補彩

補紙に本紙地色に合わせた補彩（棒絵具）を行なった。

16. 裏張り

裏摺りを行なったのち、裏張りし、十分乾燥させた。

17. 仕上げ

軸首は再使用し、八双、軸木、鐙、紐（啄木）などを新調して掛幅装に仕立てた。

18. 納入

桐製太巻添軸を新調し、包裂に包んで桐製印籠箱に納入した。

19. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理前中後の記録を整理し、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

1. 欠損と旧補修

本紙には虫損や擦り消しによる損傷が確認され、本紙の欠失箇所への旧補修や、擦り消しにより薄くなった箇所に带状の紙をあてた旧補修が確認された。旧補修は原則除去したのち、新たに補修を行なったが、本紙中央下部の旧補修のうち、除去すると大きく印象が変化してしまう箇所は現状維持とした。

2. 旧肌裏紙への墨移り

旧肌裏紙除去の際、墨が旧肌裏紙に付着してしまう箇所がみられたため、当該箇所の肌裏紙は薄く残し、糊で接着させた。

3. 擦り消しの損傷と旧補修

本文の行間の文字を擦り消した痕跡は他の箇所に比べ

て料紙が薄くなり、毛羽立ち、質感も荒れ、地透けも起こしていた。また、擦り消した表面を薄い紙で補修した箇所の中に、墨書に紙の毛羽が載った箇所がみられたが、接着が強く、無理に除去することで印象が変化することが想定されたため、現状維持とした。

4. 裏面の墨痕

本紙8行目12字目「の（能）」部分には左右反転した「の（能）」の墨跡が確認された。「秋興」の次頁に筆写したと考えられる「秋晚」4行目にある文字の一部である可能性がある。

5. 押界

本紙は当初、綴葉装の冊子で、半葉6行で押界が縦7本、天地それぞれに横1本ずつ引かれている。本紙左

側6行の押界が比較的明瞭なのは、押界を引く際に、料紙を半分に折り重ねた状態で引くことが多く、直接ヘラが触れた左側にはっきり痕跡が残ったためと推測される。

6. 軸木の墨書

軸木と八双に墨書「堂本山城切」が確認された。

修 理 者 株式会社 文化財保存

代表者 吉岡宏

担 当 者 辰巳大輔

修理価格 1,525,593 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月14日より令和3年12月23日



修理前 全体



修理後 全体

品 質 紙本墨書

法 量 修理前 全体 縦 119.7 横 46.0
 本紙 縦 25.8 横 30.0
 修理後 全体 縦 120.1 横 46.1
 本紙 縦 26.2 横 30.1

修理作品の概要

『和漢朗詠集』巻上より「春興」の箇所の断簡である。もとは綴葉装の冊子本で、昭和 14 年（1939）に京都で分割されたため、名称は京都（山城国）にちなんで付けられた。漢詩部分（漢字）は抑揚の強い行書で揮毫され、和歌（仮名）は三文字ほどの連綿を駆使した筆力のある仮名が特徴的である。筆者は平安時代中期に歌人・能書として活躍した藤原定頼（995～1045）と伝えられるが、実際は、平安時代末期、12 世紀の書写と推測される。

修理前の状態

本紙はとても薄く、裏打紙の接着力が低下し、糊離れや浮き、毛羽立ちが確認された。かつての相剥ぎの痕か、糊焼けかは不明であるが、本紙裏面から表面に及ぶ汚れがみられた。上下の取り合わせが主張しすぎて、本紙鑑賞の妨げとなっていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. ドライクリーニング

表面に付着した埃を柔らかい筆などで払い除去した。

3. 定着の確認

墨書、朱点の定着を確認した。剥落などは確認されず安定していたため、剥落止めは行なわなかった。

4. 解体

掛幅装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を除去した。

5. クリーニング

本紙表面にろ過水を噴霧し、下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸収させる方法でクリーニングを行なった。

6. 旧肌裏紙除去

常温抽出フノリ水溶液とレーヨン紙を用いて本紙表面を養生して透過台に張り込み、部分的に加湿しながら旧肌裏紙、旧補修紙を除去した。

7. 補紙

欠損部、本紙四辺など必要な箇所に本紙料紙に合わせた補修紙と新糊を用いて裏面から補紙を行なった。

8. 肌裏打ち

本紙の色調に合わせて染色した楮紙（鈴木竹久製、2.2 匁）と新糊を用いて肌裏打ちを行なった。

9. 増裏打ち

美栖紙（上窪良二製）と古糊を用いて増裏打ちを施した。

10. 折れ伏せ

折れが生じた箇所、今後折れを生じそうな箇所にごく細く切った楮紙（鈴木竹久製）の帯にて折れ伏せを行なった。

11. 表装裂調整

再使用する表装裂にクリーニングをし、裂の乱れなどを整えて必要な箇所に補修絹を補填し、肌裏打ち、増裏打ちを行ない仮張りした。新調する上下の裂も同様に肌裏打ち、増裏打ちを行ない仮張りした。

12. 付け廻し

本紙と表装裂を三段表具の形に付け廻した。

13. 中裏打ち

美栖紙と古糊を用いて中裏打ちを施し、仮張りした。

14. 総裏打ち

上巻絹、宇陀紙（福西正行製）と古糊を用いて総裏打ちを施し、表張りした。

15. 補彩

補紙に本紙地色に合わせた補彩（棒絵具）を行なった。

16. 裏張り

裏摺りを行なったのち、裏張りし、十分乾燥させた。

17. 仕上げ

軸首は再使用し、八双、軸木、鐙、紐（啄木）などを新調して掛幅装に仕立てた。

18. 納入

桐製太巻添軸を新調し、包裂に包んで桐製印籠箱に納入した。

19. 修理後の記録作作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理前中後の記録を整理し、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

1. 欠損と旧補修

旧肌裏紙除去時に本紙裏面には虫損や擦り消しによる損傷が確認され、本紙の欠失箇所への旧補修や、擦り消しにより薄くなった箇所に带状の紙をあてた旧補修が確認された。旧補修は原則除去をしたのち、新たに補修を行なったが、本紙中央下部の旧補修のうち、除去すると大きく印象が変化してしまう箇所は現状維持とした。

2. 旧裏打紙への補筆、墨移り

旧肌裏紙除去の際、墨が旧肌裏紙に付着してしまう箇所がみられたため、当該箇所の肌裏紙は薄く残し、糊で接着させた。墨書の欠失のうち、旧裏打紙に墨を補筆した箇所は鑑賞性を維持するため、欠失に沿って肌

裏紙を薄く調整して糊で接着して残した。

3. 擦り消しの痕跡

本文行間の文字を擦り消した痕跡は他の箇所比べて料紙が薄く、毛羽立ちや荒れた質感になり、地透けも起こしていた。

4. 押界

本紙は元綴葉装の冊子で、半葉6行で押界が縦7本、天地それぞれに横1本ずつ引かれている。本紙左側5行の押界が比較的明瞭なのは、押界を引く際に、料紙を半分に折り重ねた状態で引くことが多く、直接ヘラが触れた左側にはっきり痕跡が残ったためと推測される。

5. 軸、軸首の墨書

軸木と八双に墨書「堂本和歌」が確認された。また軸首の内側にも墨書（「南」、一つは判読できず）が確認された。八双袋内部に確認された墨書（内容は判読で

きず）については、表装裂から取り外して平らにして折り畳み、楮紙の畳紙に納め、新調した桐製印籠箱の底に収納した。

6. 墨書の書き足し

本紙と過去の本紙画像（伊藤寿一、鹿嶋正二共編『伝藤原定頼筆和漢朗詠集：山城切解説及釈文』里見忠三郎、1939年）と比較したところ、本紙余白や行間には図版にはない文字が書き足されていることが確認された。図版撮影時は冊子であったとみられ、現在の掛幅装になる間に書き足された可能性がある。

修 理 者 株式会社 文化財保存

代表者 吉岡宏

担 当 者 辰巳大輔

修理価格 1,451,961 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月14日より令和3年12月23日



修理前 全体



修理後 全体

品質	絹製、錦、綾、羅、刺繍
法量	修理前 全長 246.5
	幡頭幅 41.3
	幡身幅 27.8
	修理後 全長 292.3
	幡頭幅 41.4
	幡身幅 28.8

修理作品の概要

本作は天平勝宝9歳(757)の聖武天皇の一周忌法要に用いられた羅道場幡で、損傷は多々あるものの幡頭・幡身・幡足すべてを備えている。幡身上端に付けられた題箋には朱書で「平城宮御宇後太上天皇周忌御斎道場幡／天平勝宝九歳歳次丁酉夏五月二日己酉 右番」、下方には墨書で「東大寺」と書かれている。使用年月日と用途が明確である点は非常に重要な作品である。

三角形の幡頭・鏡には両面刺繍を施し、幡身・幡足はほぼ羅で製作されている。幡身は坪裂を挟んで両面に花形に切った裂(花形裁文)をあて、周りをはじめ、幡頭の縁や幡身縁等に金糸や銀糸を用いた華麗な幡である。なお、幡身の両側には羅の裂による帯状の幡身手を表裏に付けている。幡足は5条で、各条とも内側は羅の裂(1・3・5の奇数条は2種類の紫、2・4の偶数条は淡茶)で、外側には夾纈平絹の縁を付ける。多くの残欠が散らばり、随所に粉状化が進むが、本来的な分量をおよそ遺している点で貴重であり、正倉院の所蔵品と比べても残存状況はきわめて良好といえる。

修理前の状態

表面を厚いガラス板で押さえた木製額装としていたが、部位によっては内部で残欠が当初の位置から移動していた。三角状の幡頭は両側の紫地綾の劣化が進み、繊維の崩れが認められたが、内部の鏡部分にあたる下地裂の綾と刺繍の残存状態は良好であった。上方には幡を吊り下げるための組紐が遺るが、本体から外れていた。また幡頭下辺の内部には竹材の芯板が入れられており、製作当初の構造をよく伝えている。次に矩形の幡身は、坪裂の淡茶地羅と赤地羅の花形裁文の部分に硬化がみられ、とくに赤地羅の部分は顕著であった。両側の縁と上端・下端の錦は比較的良好であったが、内側の茶紫地絨の細い帯状の縁は縫糸が欠失し、当初の位置から移動している箇所も認められた。縁の両側の表裏に付けられている幡身手については、幡身の縁に縫われている条(淡茶地夾纈羅)も遺るが、本来の位置から外れて分離している条(紫地羅)もみられた。なお、幡頭の縁をはじめ、花形裁文の周りや両側の縁

に用いられている金糸と銀糸は、硬化が進み、当初の位置から外れている箇所が多く認められた。幡足は最も劣化が著しく、夾纈平絹の縁は比較的残存しているものの、異なる色と文様からなる2種類の羅を縫い繋いだ内部の紫地羅は、残欠が散らばり粉状化も進行していた。下方に錦の垂端飾が3枚残存していたが、幡足から分離しており当初の位置は不明である。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。その後、組み立て時の参照にするためガラスの上から全体のトレースを作製した。

2. 解体

ガラスを外して額装を解体し、作品を載せた状態で台裂ごと取り出した。幡が長大なため、今後の作業を考慮して、幡頭・幡身・幡足に分離した。その際、当初の縫糸を可能な限り遺すため、メチルセルロース水溶液を塗布した。本来であれば各部分を仕立て以前の状態に解体し、各裂に裏打ちを施すが、部位によっては解体が困難であったため部分解体にとどめた。まず、縁下端の錦を外し、幡身と幡足を仕立てている縫糸を切って幡足を外した。次に、幡身と幡頭の縫糸を切り幡頭を外した。幡身の縁に縫い付けられている淡茶地夾纈羅の幡身手は現状のままとし、分離している紫地羅の条は一度取り外した。

3. 整形・裏打ち

幡頭について、鏡の刺繍部分は良好であったが、両辺の紫地綾の縁は劣化が進み、解体が困難であった。ただし、輪状になった外側の縁部分が筋切れしていたため、隙間から両面に糊付けした楮紙の細い帯を差し入れて押さえた。裏面の縁にも同様の作業を行ない、解体せずに縁の裂を補強した。上記の作業は幡身の縁内側の紫地絨の細い帯にも行なった。

幡身は、上端に付けられている題箋を一度外し、糸目を揃え朱書と墨書の歪みなどを整えてヤシヤブシでごく淡い淡茶色に染めた楮紙を用いて新糊で裏打ちした(以下、裏打ちの楮紙と新糊は同様のものを用いた)。坪部に関し、花形裁文を囲む金糸については、定位置から外れたものや遊離しているものを所定の位置に戻した。坪裂の羅は脆弱化し、また、赤地羅の花形裁文の劣化もみられたことから、裏面に裏打ちを施した。縁の両側に付けられている幡身手について、外れていた紫地羅の条に関しては糸目を揃え、裏打ちした。その際には、組み立て時に折り曲げることで裏側が表になるという位置関係を考慮し、表側から裏打ちを行なった。縁に縫われている夾纈羅の幡身手は、現状の位

置で裏打ちを行なった。幡足は5条をずらしながら重ねており、上下の羅の残欠が混在していることから、端から1条ずつ処置を行なうこととした。処置にあたっては、縁が比較的遺っている上方の条から葉包紙を入れながら1条ずつ表打ちし、順次取り上げていった。中ほど以降の脆弱化した残欠については、幡足の形状を復元的にトレースし（斜めに裁断した裂を11枚ほど縫い繋ぎ、両側に縁を付けた幡足の形状）、その上に残欠を配置して形を整えた。その後、各条を裏打ちした。また、幡足下方の錦垂端飾は幡足が遺っている部分にのみ裏打ちを施した。なお、本作は幡頭・幡身・幡足とも繊維の劣化が進んでいたため、表面を安定させるためにメチルセルロース（メチルセルロース4000、1%水溶液）の塗布や噴霧を行なった。

4. 組み立て

下方の幡足から幡身、幡頭の順に設置することとし、仮の保存箱で組み立てた。まず、5条の幡足は各条を当初の形のように少しずつずらしながら重ね、分離しないように上方に楮紙の帯を付けた。幡足下方の垂端飾は、左右のバランスをみて配置した。なお、垂端飾については繊維の粉が台裂に付着しないよう、形状よりごくわずかに大きい楮紙を敷いた。次に、幡足の上方に幡身を置いた。収納にあたり、幡身手の付け根付近で折り曲げざるをえないため、美観を考慮しつつ負荷のかかる部分を保護する三角状の枕を該当部分に入れた。題箋は幡身を裏打ちした楮紙を長く伸ばしてお

き、その部分に糊付けした。さらに幡頭を所定の位置に配し、上方に組紐を並べた。なお、幡頭は幡足下方の垂端飾同様、一回り大きな楮紙を敷いた。

5. 仕上げ

仮の組み立てを行なった羅道場幡を、新規に製作した低加圧ウィンドウマット装の保存箱へ納めた。本作は当初、裂によって仕立てられていたため、部位に応じた厚みに差異がある。このため、厚めの中性紙ボードの上にポリエステル綿を重ねて敷き、作品の形状に合わせて綿を削りぬき、全体の厚みを調整した。これをオーガニックコットンで包み土台を作製し、中性紙の浅箱に納めた。土台に仮組みした幡の各部分を順次配置し、上からアクリルボードで覆った。さらに、中性紙ボードのウィンドウマットを被せた。

6. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 東京国立博物館主任研究員 三田覚之
（現奈良国立博物館主任研究員）
東京国立博物館客員研究員 沢田むつ代
株式会社 修護 井上さやか
米倉乙世

修理価格 150,000 円（材料費、本格修理費）

修理期間 令和2年10月15日より令和4年3月10日



修理前 全体



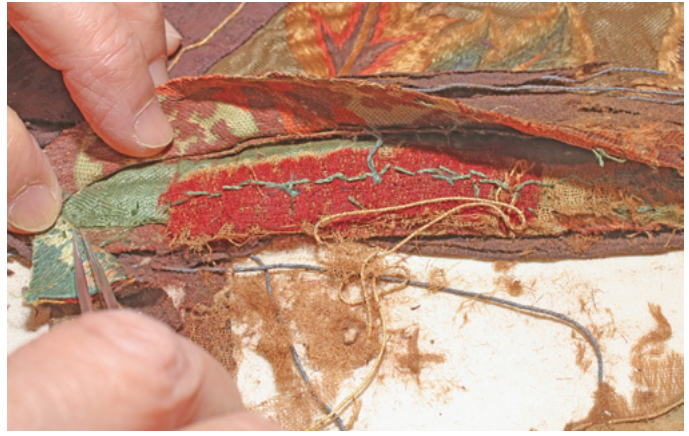
修理後 全体



三角形の枕を入れた
幡身手の折り曲げ部分



①修理前 幡頭と幡身上方



②解体 幡身から幡頭を取り外した



③解体 幡身から外した幡頭



④解体
外した題箋



⑤解体
幡頭と幡足を外した幡身



⑥解体
幡身から外した幡足



⑦幡足の表打ち
葉包紙を入れ1条ずつ処置



⑧処置を行なった幡足の上



⑨ 幡身の裏打ち



⑩ 幡足の裏打ち



⑪ 組み立て
裏打ちした幡足を保存箱に移動



⑫ 幡足に垂端飾を配置



⑬ 幡身の配置



⑭ 裏打ちした題箋の取り付け

品 質 鉄、金銅製

法 量

修理前 刀身 長 45.5 幅 3.5 (残存値)

柄 長 12.5 幅 3.5 (残存値)

修理後 刀身 長 46.0 幅 3.5

柄 長 12.6 幅 3.5

修理作品の概要

方頭大刀は柄の先端が方形をなす直刀であり、主に古墳時代後期以降に作られたと考えられている。本例の柄には懸通孔の鳩目金具のみが残るが、刀身の鍔は鍔金に施されており、鐔、鞘口金具、責金具や環付足金具などの装飾も残されている。

特に、環付足金具は、3条の責金具で鞘に固定されており、花卉状の装飾が特徴的である。環付足金具に紐を通して腰帯に結ぶと考えられており、このような足金具の装飾は他に例がなく稀少といえる。

修理前の状態

柄と刀身で大きく折損、刀身残片を含め10数片に分かれており、柄は鳩目金具付近で二つに割れ、刀身は切先付近が欠失していた。全体に錆化が目立ち、特に刀身は層状に剥離が進み、劣化が著しい状態であった。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。その後、台帳を作成し処理工程ごとの知見を記録した。金属部の残存を確認するためメタルチェックを行ない、さらに作品の構造や劣化状態を確認するためX線透過撮影（フィリップス社製X線透過試験装置MG225型）を実施した。

2. 第一次クリーニング

クリーニングは、写真、X線画像などで作品の形態を確認しつつ、木質や黒色の塗膜、木炭などに注意しながら錆や土などを除去した。作品の状態に応じてニッパー、メス、エアブラシ（パワーブラスト50N）、小型グラインダー（モニター）などを用いた。

木質や黒色の塗膜、木炭は、アクリル樹脂（パラロイドB72）6%・13%酢酸エチル溶液を用いて保護し、破片の散逸防止や作業上接合が必要な箇所は、シアノアクリレート系接着剤（セメダイン3000RS）で仮接合しつつ作業を進めた。

3. 脱塩処理

脱塩処理は方頭大刀の刀身に実施し、柄部については銅製の金具、および柄木が良好に遺存しているため行なわないこととした。

作品をポリエチレン製ネットで養生したのち、アルカリ性の0.5%セスキカーボネイト水溶液の中に浸漬し、新たな錆の誘発原因の一つである腐食促進陰イオン（塩化物イオンや硫酸イオンなど）を溶出させた。定期的に液交換を行ない、溶出した陰イオン濃度をイオンクロマトグラフィーにより確認し、濃度が基準値以下で安定するまで液交換を継続した。脱塩終了後、アルカリ分を除去した。

4. 防錆処理

方頭大刀の銅製装具の防錆のため、方頭大刀刀身および柄に対してBTA処理を実施した。BTA（1, 2, 3-ベンゾトリアゾール）3%エタノール溶液に浸漬した状態で減圧含浸を実施した。

5. 樹脂含浸（1回目）

強化と防錆のためフッ素系アクリル樹脂（アクアトップFクリヤー）20%ナフサ溶液による減圧含浸を1回実施した。

6. 第二次クリーニング

第一次クリーニングで除去しきれなかった錆や脱塩処理時に発生した錆などを除去した。

7. 樹脂含浸（2・3回目）

作品を形状に合わせてポリエチレン製ネットで養生し、前回のフッ素系アクリル樹脂による減圧含浸を2回実施した。

8. 樹脂塗布

外気との接触を可能な限り少なくし防錆効果を上げるために、含浸時の2倍に薄めた樹脂を、乾燥を挟んで2回塗布した。

9. 復元・整形

接合の必要な箇所は、シアノアクリレート系接着剤やエポキシ樹脂（セメダインハイスーパー5分・30分硬化タイプ）を用いて接合した。空隙部分や欠損部は、エポキシ樹脂にガラスマイクロバルーン（スフェリセル34P30）を混合したものをを用いて復元した。復元部分は小型グラインダーを用いて周囲と違和感のない程度に整形した。

方頭大刀の切先部は折れ曲がっていた状態であり、表面の破片は存在するが接合することができない状態であった。また、表面の破片は折れ曲がっていなかった。おそらく副葬時には大刀は折れ曲がっておらず、出土後に曲がった可能性が高いと判断された。協議により、切先の折れ曲がりを矯正し、破片を刀身に接合することとした。これに伴い、方頭大刀は平坦な形状となり安全に扱うことができるようになった。

10. 樹脂塗布

樹脂塗布を1回実施した。

11. 仕上げ

樹脂含浸や樹脂塗布によるつやを、つや消し剤（ヒットブレー多用途つやけしとうめい）を用いて抑えた。復元部は、アクリル絵具（アクリラ）を用いて、周囲と違和感のない程度に補彩した。

12. 保管台・保管箱作製

保管台は、作品からの型取りは行わず、非接触型レーザスキャン方式の三次元計測装置（RANGE7/KONICA MINOLTA 製）を用いて得た 3D データを元に作製した。工程としては、3D データから安定台を作製するための原型のデータを作成し、人工木材を切削して原型を作製した。この原型を用いて型を作製し、長期安定性に優れ、硬化後の析出物の少ない付加タイプシリコン樹脂（TSE2450）を注型し、シリコン樹脂製支持具を作製した。そして、このシリコン樹脂製支持具とバークライトを組み合わせる保管台を作製した。さらに、この保管台を収納する桐製の保管箱を作製した。

13. 修理後の調査・記録作成

保存処理終了後、考古学的・科学的見地から作品の状態をチェックした。その後、修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

本修理にあたり、実体顕微鏡（ライカ MZ、キーエン

ス VHX-200）による詳細調査、蛍光 X 線分析装置（Bruker Tracer 5i/ 日立ハイテクサイエンス EA6000VX）を用いた定性分析を実施した。

実体顕微鏡による観察では、鞘口付近の刀身と鞘が一体化しており、鞘木破断面の観察から、表面には有機物（漆や革など）の層があると考えられた。また、鞘木各部には有機物が付着していた。そして柄木の樹種は、木質に収縮がみられたため明確ではないが、木口面に道管と思われる組織が観察されたため広葉樹と推測された。

蛍光 X 線分析では、各測定箇所の蛍光 X 線検出強度から金属の材質を推定した。鞘の鞘口金具・環付足金具からは銅（Cu）と微量の銀（Ag）が検出されたことから、銅製であると判断した。また柄は、鍔・縁金具・責金具・鳩目金具も同様に銅製であるが、鐙からは金（Au）と水銀（Hg）も検出したことから、銅地に鍍金が施されたものと考えられた。

修 理 者 公益財団法人 元興寺文化財研究所

担 当 者 保存修理：尼子奈美枝、桃井奈美恵、初村武寛、田中由理、尾崎誠、岡田一郎、山口繁生、下野聖

科学分析：川本耕三、山口繁生

修理価格 2,242,240 円（本格修理費）

修理期間 令和元年 10 月 17 日より令和 3 年 9 月 29 日



修理前



修理後

品質 鉄製

法量 修理前 縦 31.0 横 16.0 厚 3.0 (残存値)
修理後 縦 31.0 横 22.0 厚 0.3

修理作品の概要

奈良時代の火葬墓に伴う鉄板と考えられる。長方形を呈し、両面には埋葬時に充填された木炭が付着している。奈良時代の火葬墓には火葬骨を納めた骨蔵器とともに墓誌が伴う例がある。墓誌は故人の生前の経歴や業績、卒年などが刻まれており、貴族や官人階級の墓に副葬されたようである。これまで出土している墓誌は金属板が主体であり、銅製が多いといえる。一方、同じ頃の火葬墓に鉄板を伴う例がある。鉄板は土中の環境によって腐朽や錆化が著しく詳細は不明であるが、墓誌や売地券に関連するものとも推測されている。

修理前の状態

大きく10数片に割れており、破片の表面、裏面とも錆化が著しく、錆膨れや層状の剝離が進行していた。また土中に埋納されていたため、作品に泥や砂などが固着していた。鉄板以外の鉄製品が作品に付着または破片に混じっている可能性があった。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。その後、台帳を作成し処理工程ごとの知見を記録した。金属部の残存を確認するためメタルチェックを行ない、さらに作品の構造や劣化状態を確認するためX線透過撮影(フィリップス社製X線透過試験装置MG225型)を実施した。

2. 第一次クリーニング

クリーニングは、写真、X線画像などで作品の形態を確認しつつ、木質や黒色の塗膜、木炭などに注意しながら錆や土などを除去した。作品の状態に応じてニッパー、メス、エアブラシ(パワーブラスト50N)、小型グラインダー(モニター)などを用いた。

木質や黒色の塗膜、木炭は、アクリル樹脂(パラロイドB72)6%・13%酢酸エチル溶液を用いて保護し、破片の散逸防止や作業上接合が必要な箇所は、シアノアクリレート系接着剤(セメダイン3000RS)で仮接合しつつ作業を進めた。

3. 脱塩処理

破片をポリエチレン製ネットで養生したのち、アルカリ性の0.5%セスキカーボネイト水溶液の中に浸漬し、新たな錆の誘発原因の一つである腐食促進陰イオン(塩化物イオンや硫酸イオンなど)を溶出させた。定

期的に液交換を行ない、溶出した陰イオン濃度をイオンクロマトグラフィーにより確認し、濃度が基準値以下で安定するまで液交換を継続した。脱塩終了後、アルカリ分を除去した。

4. 樹脂含浸(1回目)

作品の強化と防錆のためフッ素系アクリル樹脂(アクアトップFクリヤー)20%ナフサ溶液による減圧含浸を1回実施した。

5. 第二次クリーニング

第一次クリーニングで除去しきれなかった錆や脱塩処理時に発生した錆などを除去した。

6. 樹脂含浸(2・3回目)

作品を形状に合わせてポリエチレン製ネットで養生し、前回のフッ素系アクリル樹脂による減圧含浸を2回実施した。

7. 樹脂塗布

外気との接触を可能な限り少なくし防錆効果を上げるために、含浸時の2倍に薄めた樹脂を、乾燥を挟んで2回作品に塗布した。

8. 復元・整形

接合の必要な箇所は、シアノアクリレート系接着剤やエポキシ樹脂(セメダインハイスーパー5分・30分硬化タイプ)を用いて接合した。残存する破片を接合したところ、欠失部が大きく接合が不安定な箇所が2か所あったため、この部分は安全に扱えるように形状を復元した。

空隙部分や欠損部は、エポキシ樹脂にガラスマイクロバルーン(スフェリセル34P30)を混合したものを用いて復元した。復元部分は小型グラインダーを用いて周囲と違和感のない程度に整形した。

9. 樹脂塗布

樹脂塗布を1回実施した。

10. 仕上げ

樹脂含浸や樹脂塗布によるつやを、つや消し剤(ヒットスプレー多用途つやけしとうめい)を用いて抑えた。復元部は、アクリル絵具(アクリラガッシュ)を用いて、周囲と違和感のない程度に補彩した。

11. 保管台・保管箱作製

保管台は、作品からの型取りは行わず、非接触型レーザスキャニング方式の三次元計測装置(RANGE7/KONICA MINOLTA製)を用いて得た3Dデータを基に作製した。工程としては、3Dデータから安定台を作製するための原型のデータを作成し、人工木材を切削して原型を作製した。この原型を用いて型を作製し、長期安定性に優れ、硬化後の析出物の少ない付加タイプシリコン樹脂(TSE2450)を注型し、シリコン樹脂製支持具を作製した。そして、このシリコー

ン樹脂製支持具とベークライトを組み合わせる保管台を作製した。さらに、この保管台を収納する桐製の保管箱を作製した。

12. 修理後の調査・記録作成

保存処理終了後、考古学的・科学的見地から作品の状態をチェックした。その後、修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

本修理にあたり、実体顕微鏡（ライカ MZ、キーエンス VHX-200）による詳細調査を実施した。

実体顕微鏡による観察では、半ば鉄板に埋もれた状態の炭化木片が確認できた。

修 理 者 公益財団法人 元興寺文化財研究所

担 当 者 保存修理：尼子奈美枝、桃井奈美恵、初村武寛、田中由理、尾崎誠、岡田一郎、山口繁生、下野聖

科学分析：川本耕三、山口繁生

修理価格 1,441,440 円（本格修理費）

修理期間 令和元年10月17日より令和3年9月29日



修理前



修理後

品 質 土製

法 量 修理前 高 30.0 口径 20.0（破片復元値）
修理後 高 28.2 口径 17.6～18.1 底径 8.4

修理作品の概要

関東地方における縄文時代中期後半の加曽利 E2 式土器である。底部は平底で、胴部下半が内湾し、胴部上半はゆるく外反して立ち上がり、口縁部が短く内湾する深鉢形土器。口縁部は上下を隆帯によって区画して文様帯を配置し、内側に 4 単位の横 S 字状隆帯文を施す。胴部には 3 条の沈線をめぐらせて上限し、以下に 3 条の沈線で懸垂文を施す。地文は縄文。当館では本例を含む、川西小学校遺跡出土土器 6 点を所蔵する。当館では数少ない遺跡一括出土資料である。

修理前の状態

口縁部の 8 分の 1 と胴部の一部を欠損しており、旧修理により完形復元されていたものの、現状は大破していた。器面は二次焼成による劣化が目立ち、破断面には旧修理の石膏および漆が付着していた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

旧修復の接合には漆とみられる黒く硬い樹脂が使用されており、有機溶剤を注射器などで接合部に染み込ませ旧修理の接着剤を溶解しようと試みたが、溶解しなかった。そのため、解体には電動精密グラインダーと超音波カッターを使用し、物理的に接着剤を除去しつつ解体した。グラインダーの刃と超音波カッターを入れることができないほど接合面の隙間が狭い部分は、剥離が難しく、破損するおそれがあったため、解体をしないことにした。当初、温風や水蒸気での除去も考えたが、水蒸気などにより胎土が脆弱になり破損するおそれがあったため、この処置を行なわなかった。部分的に残存する石膏は除去した。

3. 洗浄

埃などの汚れはブロワーや柔らかいブラシで除去し、石膏が残存する部分は、蒸留水でクリーニングを進めた。

4. 接合・組み立て

解体した破片は、アクリル樹脂（パラロイド B72）30 % アセトン溶液で接合した。補助接着剤として硬化速度の速いセルロース系接着剤（セメダイン C）を点付けで使用した。土圧で歪みが生じ、接合面が噛み合わない部分は、できるだけ歪みが目立たない角度で接合した。

5. 強化・整形

欠失部の復元にはエポキシ樹脂のパテ（アラルダイト 6504）を使用した。破断面には後に解体しやすいよう、保護層としてアクリル樹脂（パラロイド B72）15 % アセトン溶液をあらかじめ塗布した。また、この処置は破断面の強化の役割も同時に兼ねている。

6. 補填

補強が必要な箇所や本来の形状が推定可能な部分は、エポキシ樹脂のパテ（アラルダイト 6504）で補填を行なった。補填部分には、後にパテを除去しやすいように、保護層としてあらかじめアクリル樹脂（パラロイド B72）15 % アセトン溶液を塗布した。

7. 補彩

アクリル絵具（アクリラ ガッシュ）で充填部分の補彩を行なった。

8. 修理後の記録の作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 有限会社 武蔵野文化財修復研究所
代表取締役 石原道知

担 当 者 主担当：石原道知
作業補助：浅香正枝

修理価格 697,620 円（文化財活用センター貸与促進事業費）

修理期間 令和 3 年 1 月 15 日から令和 4 年 3 月 29 日



修理前 外面



修理後 正面



修理後 上面

品 質 土製

法 量 修理前 高 33.0 口径 34.0（破片復元値）

修理後 高 34.5～35.7 口径 35.8～38.6

底径 10.1～11.0

修理作品の概要

関東地方における縄文時代中期後半の加曽利 E4 式土器である。底部は平底で、胴部が内湾して立ち上がり、口縁部がゆるく外反する広口の壺形土器である。二単位の把手が胴部に付くことから両耳鉢とも呼ばれる。口縁部は無文。胴部は地文縄文に、上半には文様帯を配置し、弧線文によって 5 つに区画されている。底部には外側から穿孔が施されていることから、埋甕として使用されていた土器であると考えられる。

修理前の状態

口縁部の一部と胴部の約 8 分の 1 を欠損していた。旧修理により完形に復元されていたものの、現状は大破しており 27 片ほどに分かれていた。接合部および破断面には、旧修理の石膏および漆が付着していた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

旧修復の接合には漆とみられる黒く硬い樹脂が使用されており、有機溶剤を注射器などで接合部に染み込ませ旧修理の接着剤を溶解しようと試みたが、溶解しなかった。そのため、解体には電動精密グラインダーと超音波カッターを使用し、物理的に接着剤を除去しつつ解体した。グラインダーの刃と超音波カッターを入れることができないほど接合面の隙間が狭い部分は、剥離が難しく、破損するおそれがあったため、解体を行なわないことにした。当初、温風や水蒸気での除去も考えたが、水蒸気などにより胎土が脆弱になり破損する恐れがあったため、この処置を行なわなかった。部分的に残存する石膏は除去した。

3. 洗浄

埃などの汚れはブローヤや柔らかいブラシで除去し、石膏が残存する部分は、蒸留水でクリーニングを進めた。

4. 接合・組み立て

解体した破片は、アクリル樹脂（パラロイド B72）30 % アセトン溶液で接合した。補助接着剤として硬化速度の速いセルロース系接着剤（セメダイン C）を点付けで使用した。土圧で歪みが生じ、接合面が噛み合わない部分は、できるだけ歪みが目立たない角度で接合した。

5. 強化・整形

欠失部の復元にはエポキシ樹脂のパテ（アラルダイト 6504）を使用した。破断面には後に解体しやすいよう、保護層としてアクリル樹脂（パラロイド B72）15 % アセトン溶液をあらかじめ塗布した。また、この処置は破断面の強化の役割も同時に兼ねている。

6. 補填

補強が必要な箇所や本来の形状が推定可能な部分は、エポキシ樹脂のパテ（アラルダイト 6504）で補填を行なった。補填部分には、あらかじめアクリル樹脂（パラロイド B72）15 % アセトン溶液を塗布した。

7. 補彩

アクリル絵具（アクリラ ガッシュ）で充填部分の補彩を行なった。

8. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

底部は残存するが、自重のためか著しく歪み、立たせたときには口縁が水平にならない。

また底部には孔が開いており、縄文人による意図的な穿孔の可能性がある。そのため、この孔は補填せずに破断面にアクリル樹脂（パラロイド B72）5 % アセトン溶液を数回塗布し、強化した。

修 理 者 有限会社 武蔵野文化財修復研究所

代表取締役 石原道知

担 当 者 主担当：石原道知

作業補助：浅香正枝

修理価格 798,600 円（文化財活用センター貸与促進事業費）

修理期間 令和 3 年 1 月 15 日から令和 4 年 3 月 29 日



修理前 外面



修理後 正面



修理後 上面

品 質 土製

法 量 修理前 器高 14.3 底径 6.7

修理後 器高 14.3 底径 6.7

修理作品の概要

飛鳥時代から平安時代の北海道南西部では^{さつもん}擦文文化が展開した。擦文とは土器の表面を木のヘラで擦ってつけた調整痕を指し、このような調整痕をもつ土器を擦文土器と呼ぶ。当該期の北海道では本州との交易が活発になり、東北北部の土師器の影響を受けて擦文土器は作られはじめた。擦文土器の器種構成は甕形土器、坏形土器、高坏形土器からなるが、本例は煮炊きに使われた甕形土器で、口縁部にはお焦げが付着している。

修理前の状態

口縁部と胴部の3分の2を欠損し、加えて旧修理による接合部分が劣化していた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

旧修理材料のサンプルを採取し、各種有機溶剤などで溶解調査を行なった。調査の結果、有機溶剤（アセトン）で容易に溶解することが判明したので、同有機溶剤を使用し解体を行なった。

3. 洗浄

破片に付着している泥や埃などは、ぬるま湯（イオン交換水）に浸した状態で先端を加工した筆を用いて洗

浄した。

4. 強化・整形

破片の破断面と亀裂に、アクリル樹脂（パラロイド B72）5～20% アセトン溶液を含浸し強化をした。

5. 接合・組み立て

接合にはアクリル樹脂（パラロイド B72）80% アセトン溶液を使用した。

6. 補填

接合でできた隙間や口縁部から底部にかけての欠失部分にエポキシ樹脂（バイサム）を補填し、形状の復元を行なった。口縁部から底部にかけてのエポキシ樹脂（バイサム）による文様の復元部分には、電動工具（TP 型ハンドモーター）や彫刻刀などを使用し、施文を行なった。

7. 補彩

エポキシ樹脂（バイサム）による復元部分の補彩には、岩絵の具、アクリル絵の具・マットメディウム（リキテックス）を用いた。復元部分の見分けがつく程度の補彩に留めた。

8. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 株式会社 東都文化財保存研究所
代表取締役 朝重嘉朗

担 当 者 解体、洗浄、強化・整形、接合・組み立て、
補填：向井雅信
補彩：佐藤美知代

修理価格 399,960 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月15日より令和3年9月30日



修理前 外面



修理前 内面



修理後 正面



修理後 裏面

品 質 土製

法 量 修理前 高 72.8

修理後 高 72.9

修理作品の概要

丸い帽子を被った男子像である。上半身のみの表現であり、下部は円筒部となる。髪形は下げ美豆良である。腰には帯を巻き、右側に結び目がぶら下がる。右手を胸にあて、左腰には大刀を佩く。大刀の鞘側は欠失する。欠損している左手側には弓のような痕跡がわずかに残る。左脇に残る剝離痕跡により、かつて胡録があった可能性がある。赤の彩色が各所に施されており、帽子の縁、顔は線状に頬を交差するように、美豆良にも渦を巻くようにある。帽子には白土が塗られており、刀付近には白土が滴り落ちたような痕跡が残る。

修理前の状態

頭部と胴部が分離していた。左腕は上腕から下が失われ、刀は鞘尻が欠損していた。また右指、裾、円筒部がわずかに欠損していた。左右両美豆良、右腕の左肩の折損部は、漆で接合をしていた。また出土時に鍬などの金属が当たってできた剝離痕が各所に残っており、円筒部表面には石膏と思われるものが付着していた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

旧修理の接着剤は、アセトンで溶解テストを行なったが溶解しなかったため解体は中止した。また接合材料は漆と考えられた。破片にはみ出している接着剤は、電動工具（TP 型ハンドモーター）や精密工具などを使用して除去をした。

3. 洗浄・クリーニング

頭部と胴部の破断面に使用されていた漆と考えられる接着剤は、赤い彩色の保存に考慮しながら、電動工具（TP 型ハンドモーター）や精密工具などを使用し、物理的に除去した。その除去後に残存した接着剤は、有機溶剤（アセトン）を用いて除去できた。破片に付着している泥や埃は、ぬるま湯（イオン交換水）に浸

した状態で先端を加工した筆を用いて洗浄した。洗浄時にラベルの除去も行なった。ラベルは別途保管した。

4. 強化・整形

頭部と胴部の破断面は、アクリル樹脂（パラロイド B72）5～7% アセトン溶液を含浸し強化した。また、亀裂や剝離部分（がじり痕）にはアクリル樹脂（パラロイド B72）5～20% アセトン溶液を塗布もしくは注入し強化した。

5. 接合・組み立て

接着剤は再修理の容易さを考慮し、有機溶剤（アセトン）で容易に溶解するアクリル樹脂（パラロイド B72）とセルロース系接着剤（セメダイン C）を使用した。断面の状態と破片を合わせた際の隙間の広さに合わせて、アクリル樹脂（パラロイド B72）の濃度を調整した。

6. 補填

接合で出来た隙間や欠損部分にエポキシ樹脂（バイサム）を補填し、形状を補填・復元した。破断面にはあらかじめ保護層としてアクリル樹脂（パラロイド B72）20% アセトン溶液を塗布した。補填後に、本体の形状にあわせ電動工具（TP 型ハンドモーター）や彫刻刀、紙 鑢を用いて形状を復元した。

7. 補彩

エポキシ樹脂（バイサム）による復元部分の補彩には、岩絵の具、アクリル絵の具・マットメディウム（リキテックス）を用いた。復元部分の見分けがつく程度の補彩に留めた。裾部に書き込まれていた旧注記は補彩で目立たなくした。

8. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 株式会社 東都文化財保存研究所

代表取締役 朝重嘉朗

担 当 者 解体、洗浄、強化・整形、接合・組み立て、
補填：向井雅信

補彩：佐藤美知代

修理価格 699,985 円（文化財活用センター貸与促進
事業費）

修理期間 令和 3 年 1 月 15 日より令和 4 年 3 月 31 日



修理前 正面



修理後 正面



修理前 背面



修理後 背面



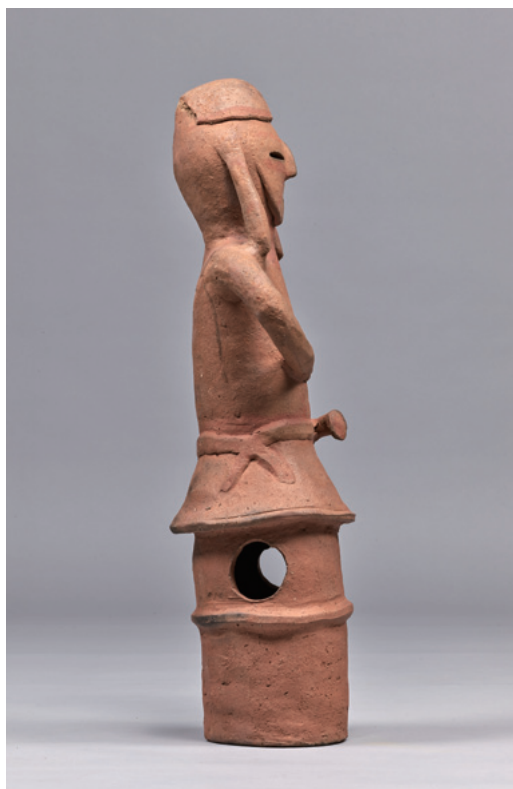
修理前 左側面



修理後 左側面



修理前 右側面



修理後 右側面



①クリーニング



②破断面の含浸強化



③接合・組み立て



④接合・組み立て



⑤補填・復元



⑥補填・復元



⑦補填部の成形

13 えすじじょうこうえんかめ S字状口縁甕 J-38859-16 1個 古墳時代・3～4世紀
大阪府柏原市・藤井寺市 船橋遺跡出土 田村淳正氏寄贈

品 質 土師器

法 量 修理前 高 26.0 口径 17.0

修理後 高 29.8 口径 17.0

修理作品の概要

伊勢湾岸に端を発し、関東をはじめ東日本の広い地域で煮炊きに用いられた容器である。口縁の断面がアルファベットのS字に近似する特徴的な形態であることからその名がついている。全体に粗い調整が目立つ半面、極めて薄手に成形される。底部に脚台が付くのが特徴であるが、欠失する。

修理前の状態

全体が細片化しており、旧修理の接着剤および復元部に使用された石膏の劣化が進み、接合部の緩みにより歪みが大きくなっていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行った。

2. 解体

ナイフ、ヘラなどを使用して、物理的な方法で接合破片を外した。接合部の形状によっては、漆により正確に接合され、接着力も強度を保っていたため、あえて破片を外す必要性はないと判断して次の作業に進んだ。

3. 洗浄

蒸留水で保管中に付いた全体の汚れを落とした。また、接着剤などが付着している接合面やその部分のみを溶剤（シンナー、リグロイン、アセトン、エタノールなど）や物理的方法で落とした。

4. 接合

破片の接合面に水溶性である膠を塗布し剝離層を設けたのち、エポキシ樹脂（エピコート）で接合した。

5. 補填

欠失部と同じ形状の芯を硬石膏（ニュープラストン）で作り、4と同様に接合した。また、失われた脚台については同時期の出土資料を参考に、本体の4分の1程度の高さとなる高6.0cmで復元を行なった。ただし、展示の際に安定させるため、復元した脚台は推定より厚みをもたせた。

6. 補彩

樹脂（ウレタン）、膠などを媒材として各種粘土粉末（備前土、信楽土、山土）や顔料を調合して補彩した。

7. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 繭山隆司

担 当 者 繭山隆司、繭山裕方

修理価格 899,030 円（文化財活用センター貸与促進事業費）

修理期間 令和3年1月15日より令和4年3月30日



修理前 全体



修理後 全体

品 質 絹本墨画淡彩

法 量 修理前 本紙 縦 60.2 横 41.6
全体 縦 137.2 横 55.8
修理後 本紙 縦 60.2 横 41.6
全体 縦 137.2 横 55.6

修理作品の概要

樹下、岩上の壮年の羅漢を大きく、これに対する僧侶を小さく描く。銘文から、金義仁なる人物が、モンゴル帝国からの激しい侵攻に対し、国土の平安と国王の長寿を願って作らせた 516 羅漢のうちの 1 幅と考えられている。国内外に同様の銘文をもつ 16 幅の現存が確認される。本作はなかでも特に優れた出来栄で、モチーフの配置には奥行があり、淡彩を用いた人物表現も丁寧である。背景の樹石は、中国の李郭派をよく学んだもの。

修理前の状態

本紙全体に著しい横折れがみられ、料絹裏面の糊の層、旧補絹の不調和が保存・鑑賞の妨げとなっていた。総裏打紙には浮きが出ており、劣化が進んでいた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の状態を写真や図面などに記録した。

2. 解体

掛幅装を解体し、表装裂地から本紙を取り外した。

3. 剥落止め

本紙の周囲に縁紙を付けて仮張りし、粉状化した絵具層に調整した膠水溶液（宇高健太郎製、牛膠 1.0～1.5%）を塗布し剥落止めを行なった。

4. 汚れの除去

新糊と養生紙を用いて仮裏打ちを施したのち、ろ過水を本紙全体に軽く噴霧し、水溶性の汚れの除去を行なった。

5. 剥落止め

本紙を仮張りし、顕微鏡観察により確認した墨と絵具に膠水溶液（宇高健太郎製、牛膠 1.0～1.5%）を塗布し剥落止めを行なった。

6. 表面の保護

フノリ水溶液と養生紙を用いて表打ちを施し、本紙の表面を保護した。

7. 旧肌裏紙および旧補修絹の除去

旧肌裏紙に少量の湿りを与え、糊の層が緩む時を見極め旧肌裏紙および旧補修絹の除去を行なった。旧補修絹は 3 種類の絹が使用されていたが、いずれも本紙料絹とは組成が異なっていたためすべて除去することと

した。

8. 裏面調査

本紙裏面の状態を写真などで記録した。彩色箇所裏面も顕微鏡調査を行なったが、裏彩色は確認されなかった。

9. 欠失箇所の補修

料絹と近似した組成の補修絹にて、欠失箇所を補填した。

10. 肌裏打ち

新糊と染色した楮紙（江溯栄貫製、2.6 匁）を用いて本紙の肌裏打ちを行なった。旧肌裏打紙は濃茶色のため薄墨や淡彩の表現が確認しづかった。新規肌裏打紙は、より料絹の色調に似せることで改善を図った。

11. 増裏打ち

古糊と美栖紙（上窪良二製）にて増裏打ちを行なった。

12. 補彩

新しく補填した補修絹に、周囲の色調に調和するように補彩（棒絵具）を行なった。

13. 折れ伏せ入れ

折れの発生した箇所および今後発生が予測される箇所に、細く切った楮紙（江溯栄貫製）により補強を施した。

14. 再使用する裂の調整

再使用する裂は裏打ちをすべて打ち替え、折れ伏せを入れ、補強した。

15. 付け廻し

本紙および、補修した表装裂を接合した。

16. 中裏打ち、総裏打ち

古糊と美栖紙（上窪良二製）にて中裏打ちを行ない、その後、古糊と宇陀紙（福西正行製）にて総裏打ちを行なった。

17. 補彩

表張りした状態で補修絹の色味の調整（棒絵具）を行なった。

18. 乾燥

表具を裏張りし、十分な乾燥期間をおいた。

19. 仕上げ

金具は錆止めを施して再使用し、新調した八双、軸木、紐などを取り付け、掛幅装に仕上げた。

20. 収納

桐製太巻添軸、桐製印籠箱、布貼覆帙を各新調し、羽二重の包装に包んだ本紙を納入した。

21. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 株式会社 岡墨光堂

代表者 岡岩太郎
担当者 金省我、亀井亮子

修理価格 3,140,015 円（本格修理費）
修理期間 令和3年1月14日より令和3年12月23日



修理前 全体



修理後 全体



修理前 本紙



修理後 本紙

品質 紙本墨画淡彩

法量 修理前 全体 縦 28.8 長 881.9
 本紙 縦 28.1 長 216.0
 修理後 全体 縦 28.8 長 627.4
 本紙 縦 28.1 長 216.9

修理作品の概要

北宋の元祐年間（1086～94）に、西域諸国から宋の宮廷にもたらされた「鳳頭驄」「錦膊驄」「好頭赤」「照夜白」「満川花」を描く。李公麟（1049頃～1106、字伯時、号龍眠）は、舒城（安徽省）の人、熙寧3年（1070）の進士。北宋を代表する文人画家であり、画馬を得意としたことで知られる。本作には黄庭堅（1045～1105）、曾紆（1073～1135）の跋も合装される。清朝宮廷旧蔵品。

修理前の状態

本紙全体に折れ、しみ、汚れがみられた。本紙類似の補紙・補強紙が各所にあった。本紙欠損部の補紙に加筆があった。跋文の墨字に墨の散りや擦れがみられた。表装全体にしみ、汚れ、緩み、擦れ、糊離れがみられた。巻緒などが欠損していた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

表紙、軸巻紙、覆輪、軸木などを本紙から取り外し、卷子装を解体した。

3. 剥落止め

墨および朱印部分に、兎膠水溶液（1.5～3.0%）にて墨、朱の強化を行なった。彩色部分には、色材や濃度に合わせて濃度と粘度を調整した兎膠水溶液を用い、絵具を定着させた。

4. 表打ち

フノリ水溶液と養生紙を用いて表打ちを行なった。

5. 旧裏打紙、旧補修紙の除去

本紙表面に水分が浸透しないよう、水分量を最小限に調整したフノリ水溶液を用い、乾式肌上げ法にて旧裏打紙の除去を行なった。本紙裏面を写真などで記録した。

6. 補紙

本紙と同質の補修紙を作製し、欠失箇所を補填した。中国製の綸子を用い、見返しの欠失箇所に補填した。

7. 肌裏打ち

未染色の楮紙（江洲栄貫製、2.7匁）を用い、新糊に

て肌裏打ちを行なった。

8. 増裏打ち

美栖紙（上窪良二製）と古糊にて増裏打ちを行なった。

9. 表装裂の裏打ち

見返し、隔水を修繕し、新糊と楮紙を用いて肌裏打ち、古糊と美栖紙を用いて増裏打ちを行なった。

10. 折れ伏せ

本紙、見返し、隔水の折れの発生している箇所および今後折れの発生が予測される箇所に、細い带状に裁断した楮紙（太田弥八郎製）を用い、新糊にて折れ伏せを入れた。

11. 軸巻紙の作製

新調する軸巻紙を作製した。

12. 中裏打ち

古糊と美栖紙を用いて中裏打ちを行なった。

13. 表装裂地の新調

表装裂地を新調し、新糊と楮紙を用いて肌裏打ちを行なった。表装裂地と見返しを合わせ、総裏打ちを施し、仮張りに張って十分に乾燥させた。

14. 接合

新糊と古糊の混合糊を用い、本紙と表装裂地を前後半に分けて接合した。

15. 総裏打ち、乾燥

古糊と竹の混合紙（江洲栄貫製）を用いて総裏打ちを行なった。表装裂地と見返しを合わせ、総裏打ちを施し、仮張りに張って十分に乾燥させた。

16. 補彩

本紙が欠失した箇所に施した補紙部分に、周囲の色調に調和するよう補彩を行なった。

17. 乾燥

裏向けに仮張りし、十分に乾燥させた。

18. 仕上げ

前後半を組み合わせた。軸首は元のものを使用し、新調した八双、軸木、紐、玉製の爪と併せて卷子装に仕上げた。

19. 収納

中国製錦裂および紵裂により作製した風呂敷で本紙を包み、新調した桐製印籠箱に納入した。新箱は旧箱とともに新調した桐製2合入台差外箱に収納した。

20. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

1. 乾隆帝御題にみられる針穴について

修理前および修理中調査により、乾隆帝御題の料紙にのみ総裏紙まで貫通している針穴が確認された。その

針穴は、文字の行間の天地に等間隔でみられた。

2. 総裏に付着した墨および朱について

修理前調査において、旧総裏紙に墨および朱の汚れがみられた。墨は、巻いた状態で接する本紙の文字の一部に合致することが確認でき、当該文字へ補筆した墨が付着したと推察される。朱の汚れについては、原因は特定できなかった。

3. 本紙料紙裏面にみられた漢数字などについて

旧肌裏紙除去後、裏面調査により第2馬、第3馬、第5馬の裏面に漢数字が確認された。その数字は馬の順番と一致した。乾隆帝御題の料紙裏面からも直線状の墨痕がみられた。

4. 軸卷紙について

修理前の軸卷紙は387.0 cmにおよび、巻径を増やすことで太巻添軸の役割をしていたと推察された。本修理ではさらに長くし、取り扱いを考慮して、一定距離ごとに糊止めした。

5. 卷紐について

修理前において、本作品の卷紐は損傷して八双付近に

わずかに残存していた。また、箱内に付属品として伝来した巻紐付きの八双については、その丈が本紙丈と異なることから、本作品の仕様に影響しないと判断し、巻紐を復元新調した（令和2・3年度国庫補助事業「織紐製作美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援事業」）。

参考文献

東京国立博物館編『修理調査報告書「五馬図巻」』東京国立博物館、2022年

修 理 者 株式会社 岡墨光堂
代表取締役 岡岩太郎

担 当 者 施工：伊加田剛史
補彩：小笠原具子

修理価格 5,946,544 円（本格修理費）

修理期間 令和元年10月17日より令和3年9月30日



修理前 表紙



修理後 表紙



修理前 引首～本紙



修理後 引首～本紙



修理前 本紙（部分）



修理後 本紙（部分）



①解体



②剥落止め



③表打ち



④旧補修紙除去



⑤補絹



⑥肌裏打ち



⑦折れ伏せ



⑧仕上げ

品質 紙本墨書

法量 修理前 全体 縦 20.2 横 599.2
 本紙 縦 19.6 横 90.9
 修理後 全体 縦 20.2 横 600.1
 本紙 縦 19.6 横 90.9

修理作品の概要

卷子装。道元文信が士能学士に宛てた尺牘(無紀年、翁方綱説では明・洪武元年(1368))。内容は、道元が「聴宣喩」という五言律詩6首と、「題扇上」という七言絶句2首の詩について批正を請うもの。道元のほか、明の項元汴(1525~90)、清の朱彝尊(1629~1709)、翁方綱(1733~1818)、陳希濂(生卒年不詳)、呉公謹(生卒年不詳)、日本の高島菊次郎(1875~1969)の印記があり、翁方綱の跋文(清・嘉慶6年〈1801〉、『復初齋文集』巻30所収)が付される。項元汴、陳希濂、呉公謹の旧蔵。

修理前の状態

天地の覆輪が各所で外れて表装が不安定となり、鑑賞上も支障があった。本紙と引首、隔水などの継目が折れており、糊離れがあった。汚れ、欠失、擦れが認められた。本紙上下部の足し紙は色調が調和していなかった。本紙と裏打紙の糊離れが進行している。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

表装裂、八双、軸木を取り外し、本紙の紙継ぎ部分にヘラを差し込み部位ごとに解体した。覆輪は糊離れを利用し、本紙より取り外した。表装裂の天地に擦れがみられたため、解体に際しては化繊紙とフノリ水溶液にて仮止めを行ない、繊維が飛散しないようにした。

3. ドライクリーニング

筆を用いてドライクリーニングを行ない、表面の塵芥を可能な限り取り除いた。

4. 剥落止め①

ろ過水を用いたクリーニングに先立ち、兎膠水溶液(1.0%)を用いて本紙および軸巻紙の墨書部分の剥落止めを行なった。

5. クリーニング

本紙を吸い取り紙の上に置き、本紙表面からろ過水(繊維状活性炭フィルターおよび中空糸フィルターで塩素および鉄分を除去したもの)を噴霧し、蓄積した塵芥を本紙外に移動させた。水を用いたクリーニング

の工程は本紙だけでなく、表装裂、引首、隔水、軸巻紙などすべてに対して行なった。

6. 剥落止め②

クリーニングが完了した本紙、軸巻紙に兎膠水溶液(1.0%)を一度塗布して剥落止めを行なった。表打ちレーヨン紙と常温抽出フノリ水溶液を用いて本紙表面の養生を行なった。

7. 旧補修紙、旧肌裏紙、足し紙の除去

本紙の表面を機能紙にて保護し、少量のろ過水を用い、裏面より小面積ごとに旧肌裏紙を除去した。場所によってはフノリ水溶液を併用した。本紙と引首の旧補修紙および足し紙を除去した。

8. 補紙

本紙、外題に補修を行なった。引首には修理工房で作製した補修紙を、本紙には高知県立紙産業技術センターに抄製を依頼した補修紙を用いた(特記)。補修紙の周囲は、重なり箇所が少なくなるよう印刀で削り、新糊にて接着させた。本紙の足し紙には楮紙(鈴木竹久製)を用い、喰裂にて補修が完了した本紙四方に廻し、取り付けた。

9. 肌裏打ち

本紙、引首、軸巻紙に、新糊を用いて肌裏打ちを施した。未染の肌裏紙(宣紙)が用いられた修理前と修理後の見え方をなるべく変化させないことを優先するため、肌裏紙は未染の楮紙を用いた。本紙部分には長谷川聡製、2.5匁、その他には鈴木竹久製、2.5匁を肌裏紙として用いた。

10. 増裏打ち①

肌裏打ちが完了した本紙、引首、軸巻紙に、古糊を用い薄口的美栖紙(上窪良二製)で増裏打ちを施した。仮張りに張り込み平滑に安定させた。

11. 折れ伏せ

一定期間仮張りに張り込み乾燥させた本紙に、非常に薄い糊を用いて、楮紙を横目に細く切ったもので折れ伏せを施した。

12. 増裏打ち②

折れ伏せを挟み込むように増裏打ちを行なった。2回目は1回目と逆の方向から(巻末側から)打ち、増裏打ちの継目が重ならないようにした。その後、再度仮張りに張り込み、平滑に安定させた。

13. 補彩

2回目の増裏打ちが完了した本紙と引首に補彩を行なった。洋紅と藍の棒絵具、藤黄の3色のみを混合して用い、本紙基調色よりも若干薄い色味とした。

14. 表装裂の紙片除去

表装裂表面に付着していた紙小片を除去した。紙繊維組成検査により本紙と同組成でないことが判明したた

め、古巢とともに保管した。

15. 表装裂、見返し、隔水の補修および肌裏打ち

クリーニングした表装裂および見返しの旧肌裏紙を除去し、軽く押しをかけて平滑にした。欠失部分には似寄りの絹および表装裂地（古裂）をあてた。表装裂、見返し、隔水にそれぞれ新糊を用い肌裏打ちを施した。表装裂、隔水の肌裏紙には未染の楮紙（鈴木竹久製）、見返しの肌裏紙には補彩で使用する棒絵具を用いて薄い藍色に染めた楮紙（鈴木竹久製）を用いた。

16. 表装裂、見返し、隔水の増裏打ち、折れ伏せ
美栖紙で古糊を用い増裏打ちを行ない、平滑に張り込んだ。折れ伏せを施し、表装裂にのみ厚み調整のため、大判の胡粉入楮紙にて2回目の増裏打ちを施した。

17. 付け廻し

各部位を卷子装の形に継ぎ合わせた。象牙製の玄翁^{げんのう}を用い、過度な力がかからないようにした。1か所を継ぐごとに2〜3日の乾燥期間を設けて徐々に行なった。

18. 覆輪の取り付け

継ぎが完了した本紙に、1つ目の隔水から軸巻紙まで覆輪を取り付けた。覆輪は楮紙に薄目の渋を引き、約1年以上枯らした渋紙を選択した。覆輪の幅は修理前と同様の寸法とし、つなぎ目も斜めに切り込みを入れる中国式の仕立てを踏襲した。

19. 中裏打ち

覆輪を天地に取り付けた本紙に、古糊を用い極薄の美栖紙にて中裏打ちを施した。

20. 表紙合わせ

表装裂と見返しを合わせた。糊には新糊と古糊を合わせたものを用い、見返しに打ち跡が生じないようにエチレンシート越しに打ち刷毛を施した。包紙に外題とラベルを元の位置に合わせ、薄い新糊にて接着を行なった。表紙合わせ後、仮張りに張り込み乾燥期間を設け安定させた。

21. 総裏打ち

楮と雁皮の割合を3:7の配合とした混合紙（江渕栄貫製）を用い、新糊とフノリ水溶液の割合を6:4で混合した糊で総裏打ちを施した。打ち跡が生じないようにエチレンシート越しに打ち刷毛を施した。

22. 張り込み

裏摺を行なった本紙に、表張りと裏張りをそれぞれ3

週間程度行ない、十分な乾燥期間を設けた。

23. 仕立て

覆輪から0.6mm控えた箇所に耳漉きを行ない、天杆、銅絲を取り付けた表装裂と本紙を接合し、卷子装に仕立てた。乾隆帝の玉簪の形式をもとに新調した硬玉製の爪と同じく新調の巻紐（落花流水八宝文）を表紙に取り付け、仕上げた。

24. 収納

元使いの桐製印籠箱に納入した。箱蓋には渋紙製の箱蓋覆を新調した。萌黄地平織布貼差込帙を新調した。旧箱付属の渋紙製差込帙に、旧肌裏紙などの古巢類をまとめて納入した。

25. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

本紙組成および補修紙

本紙：修理工房および高知県立紙産業技術センターによる紙繊維組成検査の結果、楮繊維に若干の稲藁が配合された組成と判明した。補修紙は、選定保存技術「表具用手漉和紙（補修紙）製作」保持者江渕栄貫製。ヤシャブシおよび胡桃乾燥樹皮、若干の墨を用いて染色し、クヌギとナラの木灰から抽出した灰汁にて媒染、水洗いした。

引首：修理工房および高知県立紙産業技術センターによる紙繊維組成検査の結果、楮繊維に若干のイネ科植物が混入した混合紙と判明した。表面にはキハダと思われる色材が塗布され、表面は平滑。補修紙は染色せず軽度な打紙加工を加えて用いた。

軸巻紙：竹繊維。肌裏紙は青檀繊維の特徴に似た不明繊維とイネ科の繊維の混合と判明した。

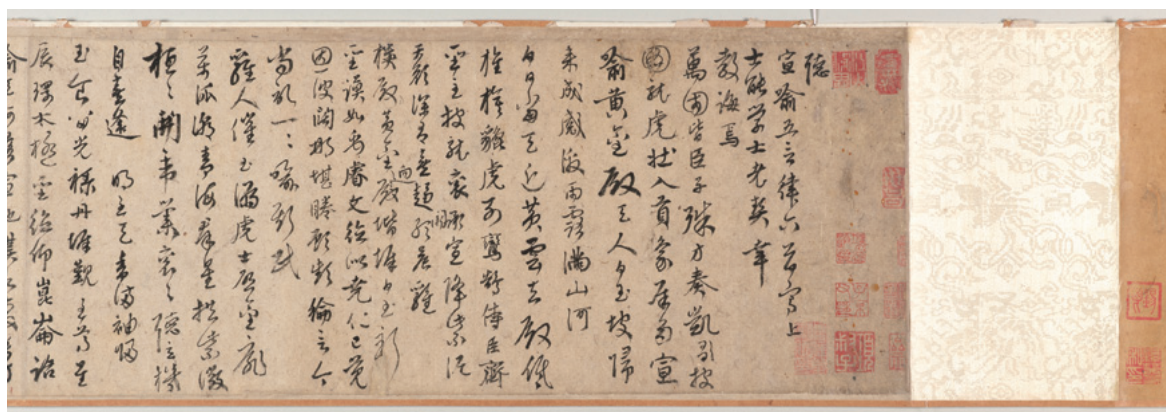
修 理 者 株式会社 光影堂

代表取締役 大菅直

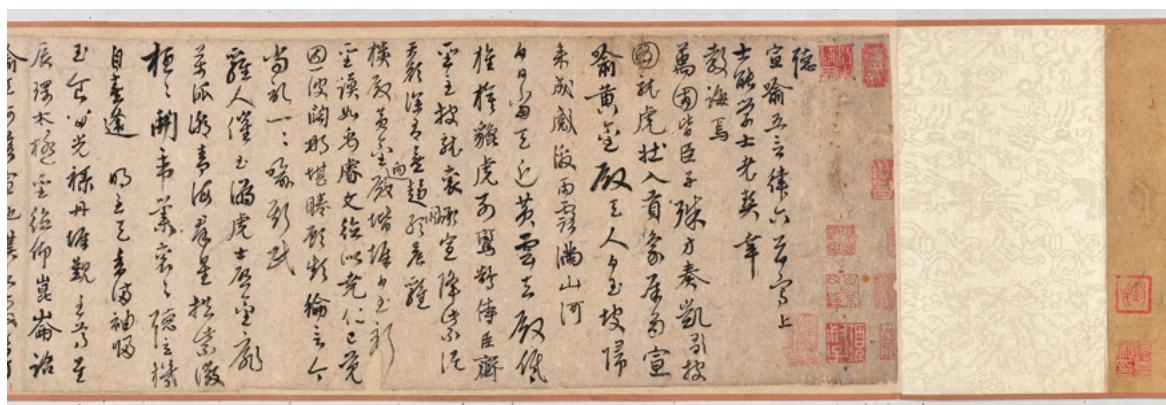
担 当 者 沖本明子

修理価格 3,706,043 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月14日より令和3年12月23日



修理前 卷頭



修理後 卷頭



修理前 卷末



修理後 卷末



修理前 表紙裂・卷紐



修理後 表紙裂・卷紐・爪

品質 紙本墨書

法量 修理前

全体 縦 30.4 横 675.0

本紙

(1) 叔晦帖 縦 24.5 横 29.9

(2) 李太師帖 縦 26.0 横 34.4~34.7

(3) 張李明帖 縦 25.8 横 31.3

修理後

全体 縦 30.7 横 675.7

本紙

(1) 叔晦帖 縦 24.5 横 29.9

(2) 李太師帖 縦 26.0 横 34.4~34.7

(3) 張李明帖 縦 25.8 横 31.3

修理作品の概要

卷子装。米芾（1051~1107）の書跡3帖を合装する。第一の「叔晦帖」は、米芾が余叔晦に秘蔵の品を贈った際の書付。第二の「李太師帖」は、李太師（李瑋）所蔵の晋賢十四帖のうち、晋の武帝、王戎、謝安の書を論じたもの。第三の「張季明帖」は、米芾が入手した張旭の秋深帖を、張の書の最高傑作と述べたもの。巻頭に乾隆、嘉慶の各内府の内題簽、巻末に項元汴（1525~90）、成沂（生卒年不詳）、犬養毅（1855~1932）、内藤虎次郎（1866~1934）の跋文、また成沂の外題簽、乾隆帝の玉簽（玉製の爪）が付される。『石渠宝笈続編』『淳化軒』所収。

修理前の状態

本紙には折れ、擦れ、汚れがみられた。本紙と裏打ち紙の接着力が低下して浮きがみられた。表装裂は摩耗が著しく巻紐も劣化が進んでいた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

表紙、軸巻、軸木などの表装から本紙を取り外した。

3. 汚れの除去

本紙に付着している汚れなどを除去した。

4. 墨、朱の剥落止め

墨や朱印について、兔膠水溶液（1.5~3.0%）を塗布し強化を行なった。

5. 表打ち

フノリ水溶液と養生紙を用いて表打ちを施した。

6. 旧肌裏紙除去

乾式肌上法にて本紙の旧肌裏紙を除去した。本紙欠失部の旧補修と補筆は本紙と馴染んでおり、糊代の余分

な段差を調整し現状維持とした。

7. 裏面調査

本紙裏面の状態を写真などで記録した。

8. 補紙および足し紙

本紙欠失部に本紙と同質の楮紙（江渕栄貫製）を調整し補填した。

本紙天地辺には、旧足し紙と同質の竹紙（江渕栄貫製）を調整し、取り付けた。「叔晦帖」右辺の足し紙は状態がよく、項元汴跋文の足し紙は肌裏紙交換による割印のずれが懸念されたため、いずれも現状維持とした。

9. 肌裏打ち・増裏打ち

新糊と染色した楮紙（太田弥八郎製、2.5匁）を用いて肌裏打ちを行なった。その後、古糊と美栖紙（上窪良二製）を用いて増裏打ちを行なった。

10. 補彩

本紙内部に補填した補修紙および本紙天地辺に取り付けた足し紙に補彩を施した。

11. 見返し・隔水の修繕、裏打ち

見返し、隔水を修繕のうえ、再使用した。引首後の隔水下部の旧補修絹は重なりを調整して再使用し、他の表装裂の旧補修絹は除去して綸子により補填した。補修後、新糊と楮紙を用いて肌裏打ち、古糊と美栖紙を用いて増裏打ちを行なった。

12. 表紙裂の新調

表紙裂を協議して選定し、新調した。

13. 表紙裂の裏打ち

新調した表紙裂について新糊と楮紙を用いて肌裏打ち、古糊と美栖紙を用いて増裏打ちを行なった。

14. 本紙・見返し・隔水の折れ伏せ

折れの発生している箇所および折れの発生が予測される箇所に、新糊と楮紙を用いて折れ伏せを施した。

15. 付け廻し

本紙および隔水を新糊・古糊の混合糊を用いて接合した。

軸巻径の調整：巻きによる本紙への負担を軽減するため、尾紙を長くして巻径を太くする中国伝統の表装様式を踏襲し、巻末に尾紙（竹紙〈江渕栄貫製〉、幅130cm程度）を追加して、本紙を巻径4cm程度に調整した。

覆輪の設置：覆輪は本紙には突き付け、引首から隔水まではのせて設置されていたため、同じ方式で付け廻した。

16. 中裏打ち

古糊と美栖紙を用いて中裏打ちを行なった。

17. 総裏打ち

古糊と混合紙（江渕栄貫製、竹と楮の割合8.5:1.5）

を用いて総裏打ちを行なった。

18. 仕上げ

表紙裂と見返しを合わせた表紙を本紙に継ぎ、軸首、爪は元のものを再使用し、新調した巻紐、八双、軸木と併せて卷子装の形に仕上げた。

19. 収納

桐製印籠箱、漆塗桐製差込外箱、中性紙製布貼差込帙を新調し、羽二重の包装に本紙を包んで納入した。

20. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修理で得られた新知見・特記事項

・繊維分析

各料紙の繊維を採取し、高知県立紙産業試験センターにて分析（項元汴跋文、成沂、犬養毅、内藤虎次郎跋文の尾紙は修理工房内にて分析）。その結果、本紙料紙は3紙とも楮、引首（蔵経紙）と尾紙はすべて竹ということが判明した。

・尾紙

尾紙には安岐の印章が捺されることから、清時代の紙と考えられたため、修理して再使用した。

・引首（蔵経紙）

冒頭部の赤外線撮影を行ない、巻頭部分の一部に「華嚴経卷第三」とあることを確認した。

・肌裏除去時に確認された墨や朱などの痕跡

「叔晦帖」の6行目1、2字の本紙裏面に本紙とは異なる紙が貼られ、わずかに墨痕もみられた。「李太師帖」の本紙裏面左端に朱ののにじみのような痕跡が3か所認められた。「張李明帖」下部の「項子京家珍藏」朱文長方印の印影右辺に4mm程度の切断痕があった。同

じく本紙左下角にわずかに朱の残存と印影の形跡がある。その他にも、「叔晦帖」旧増裏打紙、「張李明帖」裏面、尾紙第1紙の旧増裏打紙に、それぞれ朱の痕跡が認められた。

・折り目跡

「叔晦帖」「李太師帖」「張李明帖」、項元汴跋文の中央付近に、折れ伏せで補強された旧装丁時の折り目とみられる跡が確認された。

・本紙裁断跡

成沂、犬養毅、内藤虎次郎跋文の尾紙右端に本紙裁断の際に一部が折れ重なったまま裁ち落とされたような形跡があった。

・題簽下の痕跡

表紙裂、隔水に設置された題簽を解体したところ、表紙裂の成沂題簽と乾隆内府題簽の下に、以前の題簽の紙片の付着がみられた。紙片の形状から、以前は嘉慶内府題簽が表紙裂に貼付されていたと推測された。乾隆内府題簽下の紙片には墨の付着があったが判読はできなかった。

・巻紐の復元

巻紐は、清宮製と推定される旧紐（落花流水八宝文）の織組織調査を行ない、復元新調した（令和2・3年度国庫補助事業「織紐製作美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援事業」）。

修 理 者 株式会社 岡墨光堂

代表者 岡岩太郎

担 当 者 修理：木下陽介

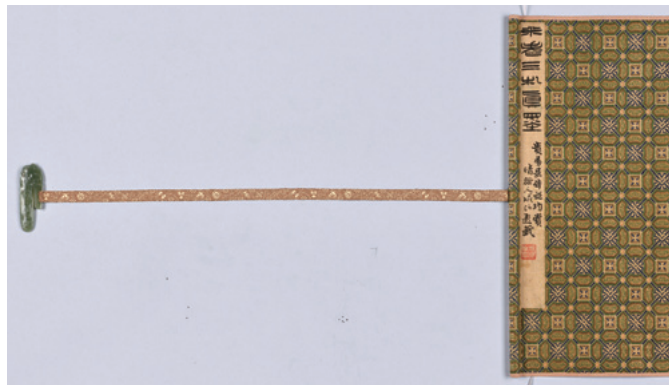
補彩：小笠原具子

修理価格 4,304,980 円（本格修理費）

修理期間 令和元年10月17日より令和3年9月30日



修理前 表紙裂・巻紐・爪



修理後 表紙裂・巻紐・爪



修理前 卷頭



修理後 卷頭



修理前 卷末



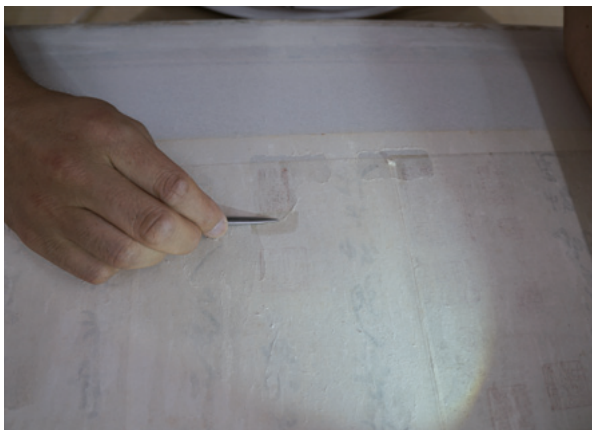
修理後 卷末



①表紙の解体



②表打ち



③旧補修紙除去



④補紙



⑤肌裏打ち



⑥折れ伏せ



⑦本紙継ぎ



⑧仕上げ

品質 木製漆塗

法量 修理前 幅 75.8 奥行 34.3 高 27.7

修理後 幅 75.2 奥行 34.3 高 27.7

修理作品の概要

本器は朝鮮時代の机である。兩班階級の住居の書斎である舎廊房（サランバン）などで用いられていたものと推察される。総体黒漆塗りとし、螺鈿で装飾されている。天板の上方両端に筆返を付け、天板の下方には低い脚を付ける。両脚の間には、中央から向かって左にかけて大きな引出を設け、向かって右には三段の小さな棚引出を設ける。大引出の正面に龍雲を七宝繫地雲形ではさむ図様、小引出の正面には亀甲繫地に犀角文を置く図様、背面には唐花草文を螺鈿であらわす。

修理前の状態

机の天板部をはじめ、全体的に汚れや埃が付着しており、塗膜の剝離、剝落がみられ、扱いを困難にしていた。また棚引出背面板が破損して外れ、別置されており、脚部の棧が1本外れて、不安定になっていた。旧修理が数か所に認められた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行った。

2. 洗浄

亀裂と欠損部周辺の塗膜、剝離塗膜と螺鈿、今後の作業で剝落しそうな箇所を確認し、小片に切った雁皮紙を薄めた糊で貼り、剝落を防止した。その後、作品の表面に付着している埃を払い取り、綿棒や木綿布を用いて純水と希釈したエタノールで汚れを拭き取った。取り切れない汚れは、作品の安全性を考慮し、無理に除去しなかった。洗浄作業中に、天板と側板の接合部分、天板と引出の後ろのあて棧の接合部分に虫の巣や卵を発見した。それらを取り出して除去し、ミュージアムクリーナーにてクリーニングを行なった。

3. 解体

①筆返：右筆返は、CT画像を参考にし、磁石によって釘の場所を確認し、エタノールで錆びた釘穴に含浸しながら金属釘を取り外した。すべての金属釘を取り外した後、筆返を天板から解体し旧接着剤を除去した。この旧接着剤は溶性だったため膠か続飯と考えられた。
②棚引出に固定されていた古い金属釘：下部の背板を底板と固定している木釘は外した形跡がなかったため、本体から解体しないこととした。棚に固定されていた古い金属釘は、磁石によって場所を確認し、釘穴へエ

タノールを含浸しながら錆びた金属釘を取り外し、旧接着剤を除去した。

③旧修理で組み込まれた繋ぎ貫：調査により、修理前に右中央引出の摺り棧の位置に付けられていた繋ぎ貫は旧修理で後補されたことがわかった。元の摺り棧と段差が生じ、中央引出がスムーズに引き出せず、底板が削れる原因となっていた。今後の引出の損傷を防ぐには、後補の繋ぎ貫を取り外し、摺り棧を当初の形状に戻す必要があった。そのため、後補の繋ぎ貫と側板の接合部分にエタノールを含浸して旧接着剤を除去し、繋ぎ貫を取り外した。柄穴に残った旧接着剤は物理的に除去を行なった。

④当初の繋ぎ貫の柄穴：③の作業と同時に、両側板の内側に当初の繋ぎ貫の柄穴があることを確認した。後補の繋ぎ貫を取り外した後、本作品の構造を維持するには繋ぎ貫が必要であるため、当初の位置に繋ぎ貫を新補することとなった。そのため旧修理で制作当初の柄穴に埋め込まれていた木材を除去した。

4. 接合・組み立て

①解体した右筆返：左筆返の位置と比較し右筆返の当初の位置を確認した。その後、右筆返と天板の接合面に膠を塗布して、クランプを用いて圧着し接合した。筆返は経年によって多少変形があったため、金属釘を取り外した釘穴に木釘を差し入れて接合した。欠損部には木材を加工して本体と接合し構造を強化した。

②棚引出の背板：割損して外れた上部の背板は、下部の背板の破断面へ希釈した麦漆を含浸して接着した。背板と本体の接合は、背板左側に木地の欠損が見られ、背板が固定できない状況であった。また、欠損箇所周囲の塗膜状況から、本来は棒状の面材で背板に数mm被せ、側面材に背板を固定していたことが判明した。棚の金属釘を取り外した釘穴に沿って木釘を制作し、背板と棚を木釘で組み立てた。クランプと竹ひごを利用して組み立てを強化した。背板の塗膜被せの痕跡を参考にして棒状の補材を制作し、クランプや端金にて背板の左側に固定し本体と組み立てた。また経年で背板の素地が収縮したため、組み立てた背板と天板の間に隙間が生じていた。組み立て構造の安定を図るため、隙間の形状に合わせて補材を制作し、麦漆で背板と天板に接合した。接合部の隙間は、刻苧を充填し、補材全体を麦漆で含浸して漆下地を施し、形状を整えた。

③繋ぎ貫：木材を除去した当初の柄穴の形状を参考にし、新たに繋ぎ貫を制作した。当初の位置に麦漆で本体と組み立て、接合箇所を強化するため、竹ひごの弾力を利用して圧着を行なった。

④棚引出底部の欠失した左畳摺の足：棚引出の底部左側の畳摺の足が欠失していた。継続の調査により、こ

こに足を固定したと考えられる釘の残存と釘跡の確認ができた。天板は中央に向かって凹み、両側板は「ハの字」に広がる等の変形が確認でき、この畳摺の足の欠失がその原因と考えられた。補足しないと、天板に負担がかかり、経年で構造の変形が進行する可能性が懸念された。本作品の構造の安定と鑑賞の目的を図るため、欠失した足を新補する事とした。残る畳摺の足の形状を参考にし、適した木材で足を制作した。一つの金属釘を取り外し、オリジナルの釘穴を利用し、木釘と麦漆で新補の足を本体と接合した。

⑤剥落木片

作品搬入の際、棚引出の上段引出内に納められていた剥落木片は、元の場所が判明できなかったため別置き、薄葉紙に保管した。

5. 強化・整形

塗膜の養生で貼り付けた雁皮紙を、純水を含んだ面相筆で除去した後、状態によって以下処置を行なった。

①螺鈿部分：螺鈿のオリジナルの色味を考慮し、膠水を含浸した。膠水の濃度をテストした上で、作業を行なった。まず、膠水の浸透性をよくするため、数滴の無水エタノールを螺鈿の剥離箇所中含浸した。その後、薄めた膠水を塗布し、膠水が圧着の必要箇所に浸透するように竹べらで軽く表面を押さえ、湿したティッシュで余分な膠水を完全に拭き取った。塩化ビニールシートを置き、芯張り法またはクランプを利用して圧着した。

②亀裂、剥離塗膜と素地の露出部分：希釈した麦漆の濃度をテストし、亀裂・剥離塗膜と素地の露出部分に含浸し、芯張り法またはクランプを用いて圧着した。

③除去した後補の繋ぎ貫の柄穴：柄穴に木の補材を象嵌し、麦漆で接着した。接合部の隙間に刻苧と漆下地で形状を整えた。

④大引出の摺り棧：大引出の摺り棧の欠損部分は、周りの棧を参考に木の補材を制作した。オリジナルの摺

り棧と段差が生じないように麦漆で接合し、旧釘穴は木釘で補填した。接合部の隙間に刻苧を充填し、補材全体に漆下地を施して形状を整えた。

⑤大引出の欠損箇所：スムーズに引き出せず、底板が割れた状態であった大引出は、欠損箇所に木の補材を麦漆で接着し、クランプで圧着した。その後、刻苧と漆下地で形状を整えた。

6. 補填

①釘穴：解体作業で外した全部の金属釘の穴に木釘を入れ、隙間に麦漆・木粉と微粒子の地の粉を混合した刻苧で補填した。

②亀裂、素地の露出部分：素地の収縮で素地の継目に生じた亀裂、天板と側板の接合部にある亀裂、素地の露出部分に、刻苧と漆下地を補填した。補填は、亀裂状態に応じて刻苧と漆下地の荒さを調整し、数回に分けた。砥石で刻苧面を平滑に研ぎ、漆下地を付け、再び損傷が起こらないよう補強した。

③欠損：天板の後左側にある欠損した角、右筆返の前端にある欠損、引出の欠損箇所に、周辺の形状を参考にして刻苧と漆下地を施し、補填した。

7. 補彩

塗膜の補強と艶の復元を図るため、全体に漆固めを行なった。作品の雰囲気に合わせて漆を調合して塗膜に施し、表面に漆が残らないように完全に拭き取った。

8. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 東京藝術大学大学院美術研究科
文化財保存学専攻 保存修復工芸研究室
代表者 北野珠子
担 当 者 松本達弥、馬明新
修理価格 1,043,020 円（本格修理費）
修理期間 令和3年1月12日より令和3年12月17日



修理前 正面



修理後 正面



修理前 背面



修理後 背面



①クリーニング



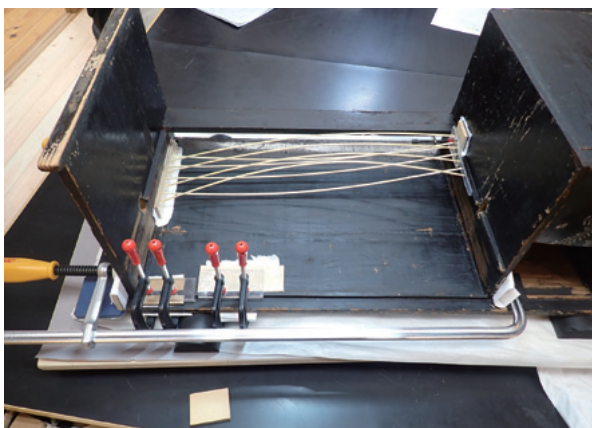
②解体



③古い金属釘の除去



④背板補材



⑤繋ぎ貫の圧着



⑥左畳摺足の新補



⑦螺鈿の含浸圧着



⑧刻苧補填

品質 絹、羅、緯絲

法量 修理前 丈100.7 幅229.4

修理後 丈100.8 幅232.6

修理作品の概要

田相を紫羅地とし、そこに二重蔓牡丹唐草文の印金を施した壮麗な袈裟である。条葉と縁には重なり合う葉文様を織り出した緯絲（綴織）や、淡茶羅地に印金で花葉文をあらわした裂を用いる。ふくよかで大きく弧を描く葉の表現から、緯絲は明代のものと推定され、修復のために使用されたものと考えられる。紐座および四天には、羅地に印金で如来と四天王をあらわした裂を配す。元禄2年（1689）に記された裏地の墨書によれば、中国・南宋の臨済宗の僧、無準師範（1177～1249）が弟子・無学祖元（1226～86）に贈り、最終的に相国寺第二世春屋妙葩（1311～88）が相伝したと伝えられる。

修理前の状態

おそらく墨書が記された元禄2年に修理がなされ、その際に紙による裏打ちと、裏地（紅絹）の新調が行なわれたと推測される。全体的に裂が脆弱化しており、羅、緯絲ともに裏打ちの接着がはがれ、裂がめくれ硬く反っていた。加えて、過去に小さい桐箱に納められていたことから縦横の折れが顕著で、それに伴う切れや部分的な欠失も生じていた。また、旧修理によるオーバーペイントや、表地と裏地の引きつれも認められた。

修理仕様

1. 修理前の記録・調査（表面）

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。あわせて、赤外線撮影、蛍光X線分析、三次元分光分析で金糸や染料の分析、料絹繊維組成検査を実施した。また、パッチテストを行ない、印金や染料、汚れの定着具合を調べ、修理の作業順序や方法を検討した。

2. めくれ抑え・部分養生

裂が裏打ちから浮く箇所、フノリを小筆で差し込み安定させた。折れ山など損傷が広がりうる部分には、フノリを用い、化学繊維紙をあて養生した。

3. 解体①と修理前の記録・調査（裏面）

本体から紐座を取り外したのち、裏面の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。加えて赤外線撮影、パッチテストを行ない、染料や汚れの定着具合を調べ、修理の作業順序や方法を検討した。

4. 解体②

縫いをほどこし、紫縁と裏地、芯紙を本体から外した。強く糊で接着されていた箇所は、裂を傷めないよう、紙の繊維をほぐし、ヘラで少しずつ解体した。

5. 表打ち（羅地印金）

常温抽出のフノリを用い、化学繊維紙と楮紙にて羅地印金を養生した。

6. 旧裏打ち紙の除去（羅地印金、緯絲、後補裂、紐座）

刷毛でわずかに湿り気を与え、繊維をほぐしながら裏打ち紙を除去した。作業には室温のろ過水を用いた。

7. 旧補修材の除去（緯絲、裏地）

緯絲の欠失部や剥ぎ部分に接着された後補裂を取り外した。また、裏地の欠失部にあてられていた補修裂の縫いをほどこした。接着されていた箇所について、裂を傷めないよう、湿り気を与えながら慎重に外した。

8. 新規裏打ち紙、新規補修材の準備

裏打ち紙、補修裂、補強裂について、オリジナルとの馴染みや柔軟性を考慮し、厚みや色を検討した。染色にはすべて天然染料を用いた。

9. 裏打ち（羅地印金、緯絲、後補裂、紐座）

羅地印金と紐座には、染色した楮紙を新糊で裏打ちした。緯絲、後補裂には染色した極薄楮を、新糊とフノリの混合糊で少しずつ裏打ちした。作業中は、裂に過度な糊分が浸透しないよう留意した。

10. 表打ち除去（羅地印金、紐座）

化学繊維紙越しに湿り気を与え、表打ちのフノリを吸取紙に移し取り、除去した。

11. プレス

わずかな湿り気を与え、歪みや形を整えた後、作品を傷めない範囲で毛氈にて圧した。

12. 補修裂の留め付けと亀裂部の繕い（裏地、紫縁）

本体に馴染むよう薄絹を染色し、損傷部の裏に添わせて繕った。

13. 補強裂の留め付け

本体との馴染みと強度を考慮して補強裂を選び、染色した。傷んでいる箇所を避け、オリジナルの裂に負担がかからないよう補強裂を縫い留めた。

14. 部分仕立て

裂を傷めないよう考慮しながら、田相と横堤を縫い合わせた。紐座を仕立て直し、留め紐を新調した。

15. 芯地留付け

本体との馴染みと強度を考慮し、芯地には半練りの薄絹を選択した。オリジナルの裂が脆弱であるため、各部位の裏打ち紙の余白部分を用い、芯地に縫い留めた。

16. 仕立て

芯地を添わせた本体の裏に裏地を留め付け、紫縁と紐

座を本体に縫い合わせた。紐座については類例を参照し、紫地と茶地の堺部分のみ留め付けることとした。

17. 保存箱作製

本体を平置きで収納できる中性紙製の被せ蓋箱を作製した。作品に負担をかけずに取り扱えるよう、本体下に黒地布を敷いた。

18. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成

した。

修 理 者 株式会社 半田九清堂

代表者 半田昌規

担 当 者 半田幾子、山本一來、大嶋英里

修理価格 10,780,000 円 (バンク・オブ・アメリカ寄附金)

修理期間 令和元年 6 月 28 日より令和 3 年 5 月 31 日



修理前 全体 左半分



修理前 全体 右半分



修理後 全体



修理前 四天



修理後 四天



①養生



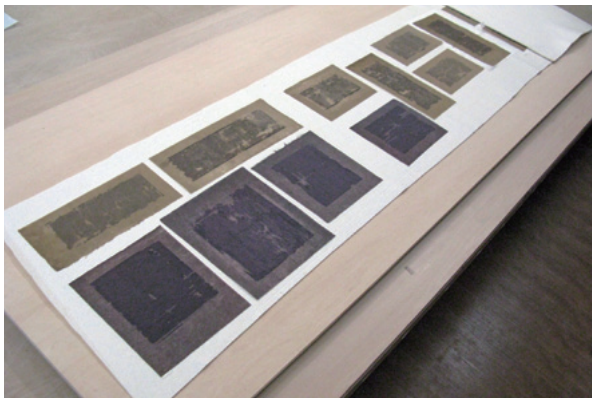
②解体



③旧裏打紙の除去



④新規裏打ち



⑤プレス



⑥補強裂留め付け



⑦部分仕立て



⑧仕立て

品 質 土製

法 量 修理前 高 18.7 口径 9.8

修理後 高 18.4 口径 9.7

修理作品の概要

回転成形による小型の短頸壺である。胴部は底部から直線的に外方へ立ち上がり、中ほどより内湾しながら頸部に至る。口縁端部は上部にわずかな平坦面を有した断面隅丸方形を呈す。こうした形状は後漢時代における中国東北部の中心地であった遼寧省遼陽市域の土器とも共通するが、底部の回転糸切痕や胴部の縄痕をナデ消さないなどの手法は朝鮮半島北部の楽浪漢墓出土土器と共通する。本品を含む蘆家屯 3 号磚墓出土品は、後漢時代における中国東北部の位相を今に伝えるものとして高い資料的価値を有している。

修理前の状態

旧修理で 17 片程の破片が接合されていたが、旧接合部で 6 片に分離していた。また胴部の一部は欠失し、内外面ともに土と煤で汚れていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行った。

2. 解体

ナイフ、ヘラなどを使用して、物理的な方法で接合破

片を外した。接合部の形状によっては、漆により正確に接合されている部分もあったが、接着力も強度を保っていたため、あえて破片を外す必要性はないと判断して次の作業に進んだ。

3. 洗浄

蒸留水で保管中に付いた全体の汚れを落とした。また、接着剤などが付着している接合面やその部分のみを溶剤（シンナー、リグロイン、アセトン、エタノールなど）や物理的方法で落とした。

4. 接合

破片の接合面に水溶性である膠を塗布し剝離層を設けたのち、エポキシ樹脂（エピコート）で接合した。

5. 補填

欠失部と同じ形状の芯を硬石膏（ニュープラストン）で作り、4 と同様に接合した。

6. 補彩

樹脂（ウレタン）、膠などを媒材として各種粘土粉末（備前土、信楽土、山土）や顔料を調合して補彩した。

7. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 繭山隆司

担 当 者 繭山隆司、繭山裕方

修理価格 499,290 円（本格修理費）

修理期間 令和 3 年 1 月 15 日より令和 3 年 9 月 29 日



修理前



修理後

品 質 土製

法 量	修理前	蓋	高 18.5	径 23.6
		器身	高 17.7	径 19.0
	修理後	蓋	高 19.4	径 23.6
		器身	高 17.6	径 19.4

修理作品の概要

副葬用に作られた容器である。器身と器蓋からなり、両者をあわせた状態で出土した。器身はやや縦長の円筒形で、口縁端部には平坦面をもつ。器蓋は器身よりもひとまわり大きくなっている。また端部を末広がり気味に作り、胴部は直線的に立ち上がる。上面はわずかに甲盛とする。後漢時代のなかでも中国東北部（特に遼寧省域）に類例が多い器種である。本品を含む蘆家屯3号磚墓出土品は、後漢時代における中国東北部の位相を今に伝えるものとして高い資料的価値を有している。

修理前の状態

器身は胴部に接合や亀裂が認められた。器蓋は16片の旧接合が目立つもののほぼ全形を留めていた。ただし一部に石膏による補填があり、またこれとは別に欠失部があった。器身、器蓋ともに土や煤が付着し汚れていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行った。

2. 解体

ナイフ、ヘラなどを使用して、物理的な方法で接合破片を外した。接合部の形状によっては、漆により正確に接合されている部分もあったが、接着力も強度を保っていたため、あえて破片を外す必要性はないと判断して次の作業に進んだ。

3. 洗浄

蒸留水で保管中に付いた全体の汚れを落とした。また、接着剤などが付着している接合面やその部分のみを溶剤（シンナー、リグロイン、アセトン、エタノールなど）や物理的方法で落とした。

4. 接合

破片の接合面に水溶性である膠を塗布し剝離層を設けたのち、エポキシ樹脂（エピコート）で接合した。

5. 補填

欠失部と同じ形状の芯を硬石膏（ニュープラストン）で作り、4と同様に接合した。

6. 補彩

樹脂（ウレタン）、膠などを媒材として各種粘土粉末（備前土、信楽土、山土）や顔料を調合して補彩した。

7. 修理後の記録作成

修理後の作品の記録撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 繭山隆司

担 当 者 繭山隆司、繭山裕方

修理価格 799,700 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月15日より令和4年3月30日



修理前



修理後

品 質 土製

法 量 修理前 蓋 高 12.0 長 21.8
器身 高 17.5
修理後 蓋 高 12.5 長 21.0 幅 9.2
器身 高 10.7 長 17.5 幅 6.6

修理作品の概要

副葬用に作られた中央部にくびれをもつ楕円形の盒であり、中国東北部のなかでも遼寧地域で多見される器種である。器身と器蓋は相似形をなして器蓋がひとまわり大きく、両者をあわせた状態で出土した。器身の底板と器蓋の上板は粘土板のヘラ切成形で、胴部はいずれも粘土紐の巻き上げにより成形する。器身・器蓋ともに、小口側の端部のみわずかに肥厚させる。内部に魚骨が土と共に固着している。本品を含む蘆家屯3号磚墓出土品は、後漢時代における中国東北部の位相を今に伝えるものとして高い資料的価値を有している。

修理前の状態

器身は土と煤で汚れるも完形であった。器蓋は小口面と上面を中心に破損し、また一部は石膏により補填されていた。また内部に魚骨が遺存していた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

ナイフ、ヘラなどを使用して、物理的な方法で接合破片を外した。

3. 洗浄

蒸留水で保管中に付いた全体の汚れを落とした。ただし魚骨が遺存する器身内側は手を加えずそのまま保存することとした。また、接着剤などが付着している接合面やその部分のみを溶剤（シンナー、リグロイン、アセトン、エタノールなど）や物理的方法で落とした。

4. 接合

破片の接合面に水溶性である膠を塗布し剝離層を設けたのち、エポキシ樹脂（エピコート）で接合した。

5. 補填

欠失部と同じ形状の芯を硬石膏（ニュープラストン）で作り、4と同様に接合した。

6. 補彩

樹脂（ウレタン）、膠などを媒材として各種粘土粉末（備前土、信楽土、山土）や顔料を調合して補彩した。

7. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 繭山隆司

担 当 者 繭山隆司、繭山裕方

修理価格 698,390 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月15日より令和4年3月30日



修理前



修理後

品 質 土製

法 量 修理前 高 6.1 径 21.0

修理後 高 7.2 径 21.3

修理作品の概要

発掘当時の遺構写真から、同墓から出土した当館所蔵「灰陶鉢」(TJ-2997)に伴う蓋であると判断される。側面はやや内湾して立ち上がり、端部は隅丸方形とし、上面は甲盛とする。後漢時代においては中国東北部で多見される器種である。本品を含む蘆家屯3号磚墓出土品は、後漢時代における中国東北部の位相を今に伝えるものとして高い資料的価値を有している。

修理前の状態

15片の破片が旧修理によって接合されていたが、複数箇所外れ13片に分かれていた。全体の約1/3が欠失していた。全体が土や埃が付着し汚れていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行った。

2. 解体

ナイフ、ヘラなどを使用して、物理的な方法で接合破片を外した。接合部の形状によっては、漆により正確

に接合されている部分もあったが、接着力も強度を保っていたため、あえて破片を外す必要性はないと判断して次の作業に進んだ。

3. 洗浄

蒸留水で保管中に付いた全体の汚れを落とした。また、接着剤などが付着している接合面やその部分のみを溶剤(シンナー、リグロイン、アセトン、エタノールなど)や物理的方法で落とした。

4. 接合

破片の接合面に水溶性である膠を塗布し剝離層を設けたのち、エポキシ樹脂(エピコート)で接合した。

5. 補填

欠失部と同じ形状の芯を硬石膏(ニュープラストン)で作り、4と同様に接合した。

6. 補彩

樹脂(ウレタン)、膠などを媒材として各種粘土粉末(備前土、信楽土、山土)や顔料を調合して補彩した。

7. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 繭山隆司

担 当 者 繭山隆司、繭山裕方

修理価格 599,060 円(本格修理費)

修理期間 令和3年1月15日より令和4年3月30日



修理前



修理後

品 質 土製

法 量 修理前 高 12.5 横幅 22.7

修理後 高 13.0 横幅 22.8 奥行 19.6

修理作品の概要

副葬用に小型化して作られた竈の模型である。平面台形をなし、正面には横長方形の焚口を設け、上面には掛口を大小計2口、および煙突穴を1孔設ける。底部に底板はなく、側面の下端部は内側にむけて肥厚させる。中国東北部における後漢時代の灰陶竈としては中型に属す。本品を含む蘆家屯3号磚墓出土品は、後漢時代における中国東北部の位相を今に伝えるものとして高い資料的価値を有している。

修理前の状態

旧接合が部分的に外れ、現状では上面は10片に、側面は6片に分かれていた。また土や煤が付着し汚れていた。

修理仕様

1. 修理前の調査・記録

修理前の作品の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。

2. 解体

ナイフ、ヘラなどを使用して、物理的な方法で接合破片を外した。接合部の形状によっては、漆により正確

に接合されている部分もあったが、接着力も強度を保っていたため、あえて破片を外す必要性はないと判断して次の作業に進んだ。

3. 洗浄

蒸留水で保管中に付いた全体の汚れを落とした。また、接着剤などが付着している接合面やその部分のみを溶剤（シンナー、リグロイン、アセトン、エタノールなど）や物理的方法で落とした。

4. 接合

破片の接合面に水溶性である膠を塗布し剝離層を設けたのち、エポキシ樹脂（エピコート）で接合した。

5. 補填

欠失部と同じ形状の芯を硬石膏（ニュープラストン）で作り、4と同様に接合した。

6. 補彩

樹脂（ウレタン）、膠などを媒材として各種粘土粉末（備前土、信楽土、山土）や顔料を調合して補彩した。

7. 修理後の記録作成

修理後の作品の写真撮影を行ない、修理報告書を作成した。

修 理 者 繭山隆司

担 当 者 繭山隆司、繭山裕方

修理価格 599,060 円（本格修理費）

修理期間 令和3年1月15日より令和4年3月30日



修理前



修理後

令和 4 年度 継続修理作品一覧

令和 3 年度 対症修理作品一覧

List of Works Conserved in Fiscal Year 2021

令和4年度 継続修理作品一覧

No	列品番号	指定／名称	作者等／出土地	員数	時代	修理施工者	修理価格(円)	主な修理内容
1	A-11131	六遠山水図 潤遠	池大雅筆、滝鶴台賛	1 幅	江戸時代・明和3年(1766)	(株)光影堂	11,083,490	解体、剥落止め、クリーニング、裏打ち、補彩、保存箱作製
	A-11132	六遠山水図 幽遠	池大雅筆、滝鶴台賛	1 幅	江戸時代・明和3年(1766)	(株)光影堂		解体、剥落止め、クリーニング、裏打ち、補彩、保存箱作製
	A-11133	六遠山水図 迷遠	池大雅筆、滝鶴台賛	1 幅	江戸時代・明和3年(1766)	(株)光影堂		解体、剥落止め、クリーニング、裏打ち、補彩、保存箱作製
	A-11134	六遠山水図 平遠	池大雅筆、滝鶴台賛	1 幅	江戸時代・明和3年(1766)	(株)光影堂		解体、剥落止め、クリーニング、裏打ち、補彩、保存箱作製
	A-11135	六遠山水図 深遠	池大雅筆、滝鶴台賛	1 幅	江戸時代・明和3年(1766)	(株)光影堂		解体、剥落止め、クリーニング、裏打ち、補彩、保存箱作製
	A-11136	六遠山水図 高遠	池大雅筆、滝鶴台賛	1 幅	江戸時代・明和3年(1766)	(株)光影堂		解体、剥落止め、クリーニング、裏打ち、補彩、保存箱作製
2	A-12486	泰西騎士像		1 幅	江戸時代・17世紀	(株)半田九清堂	2,831,185	剥落止め、クリーニング、裏打ち、表装の新調、保存箱作製
3	I-3947	小袖 白地片身替格子縞段織		1 領	室町時代後期～安土桃山時代・16世紀	(株)松鶴堂	5,665,841	織糸と中綿の整え、皺伸ばし、補修、保存箱作製
4	J-6195	広口壺	香川県高松市 石清尾山猫塚古墳出土	1 個	古墳時代・3～4世紀	(有)武蔵野文化財修復研究所	790,900	解体、クリーニング、強化・接合、補填、補彩
5	J-11982	甗		1 個	古墳時代・6世紀	(有)武蔵野文化財修復研究所	510,400	解体、クリーニング、強化・接合、補填、補彩
6	J-21428	埴輪 踊る人々	埼玉県熊谷市 野原古墳出土	1 個	古墳時代・6世紀	(株)東都文化財保存研究所	1,199,880	解体、クリーニング、強化・接合、補填、補彩、支持具作製
7	J-21429	埴輪 踊る人々	埼玉県熊谷市 野原古墳出土	1 個	古墳時代・6世紀	(株)東都文化財保存研究所	1,399,860	解体、クリーニング、強化・接合、補填、補彩、支持具作製
8	J-22408	甕形土器	北海道枝幸町歌登出土	1 個	オホーツク文化期・5～6世紀	(株)東都文化財保存研究所	499,950	クリーニング、強化・接合、補填、補彩
9	QA-3623-2	◎《岩手県宝物目録：社寺及人民》		1 冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟	55,792,634	解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-1	◎《岩手県宝物精細簿：単》		1 冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-2	◎《東京府宝物精細簿：甲；公爵徳川家達・侯爵徳川義礼》		1 冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製

No	列品番号	指定／名称	作者等／出土地	頁数	時代	修理施工者	修理価格(円)	主な修理内容
	QA-3624-3	◎《東京府宝物精細簿；乙》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-4	◎《東京府宝物精細簿；甲；公爵徳川家達・侯爵徳川義礼》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-5	◎《東京府宝物精細簿；乙》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-6	◎《徳川公爵宝物精細簿》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-7	◎《前田公爵宝物精細簿》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-8	◎《東京府宝物参攷簿；単》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-9	◎《東京府仮定精細簿》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-10	◎《神奈川県宝物精細簿；単》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
9	QA-3624-11	◎《神奈川県宝物参攷簿；単》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟	55,792,634	解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-12	◎《愛知県宝物精細簿；各社寺人民》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-13	◎《愛知県宝物精細簿；単；社寺士民》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-14	◎《徳川侯爵宝物精細簿；2；附成瀬子爵刀剣之部》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-15	◎《滋賀県宝物精細簿；天；滋賀郡延暦寺・園城寺・安楽律院》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-16	◎《滋賀県宝物精細簿；地；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-17	◎《滋賀県宝物精細簿；人；神崎郡・蒲生郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・西浅井郡・伊香郡・高島郡・附士民》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-18	◎《滋賀県宝物精細簿；甲；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社) 国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製

No	列品番号	指定／名称	作者等／出土地	員数	時代	修理施工者	修理価格(円)	主な修理内容
9	QA-3624-19	◎《滋賀県宝物精細簿：乙；蒲生郡・神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・伊香郡・高島郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟	55,792,634	解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-20	◎《滋賀県宝物参攷簿：天；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡・蒲生郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-21	◎《滋賀県宝物参攷簿：地；神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・西浅井郡・伊香郡・高島郡・附士民之部》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-22	◎《滋賀県宝物参攷簿：天》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-23	◎《滋賀県宝物参攷簿：地》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-24	◎《滋賀県史料参攷簿：単；社寺及士民》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-25	◎《京都市宝物精細簿：1；上京区》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-26	◎《京都市宝物精細簿：2；下京区；甲》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-27	◎《京都市下京区精細簿：3；下京区；乙》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-28	◎《京都府宝物精細簿：4；愛宕郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-29	◎《京都府宝物精細簿：5；葛野郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-30	◎《京都府宝物精細簿：6；乙訓郡・紀伊郡・宇治郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-31	◎《京都府宝物精細簿：7；久世郡・相楽郡・綴喜郡・南桑田郡・北桑田郡・船井郡・天田郡・何鹿郡・加佐郡・与謝郡・中郡・竹野郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-32	◎《京都市宝物精細簿：8；上京区士民》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製
	QA-3624-33	◎《京都府宝物精細簿：9；下京区士民・附各郡士民》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修理装演師連盟		解体、クリーニング、補強、補紙、補修、保存箱作製

No	列品番号	指定／名称	作者等／出土地	員数	時代	修理施工者	修理価格(円)	主な修理内容
9	QA-3624-34	◎《京都市下京区宝物 精細簿；1》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟	55,792,634	解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
	QA-3624-35	◎《京都府宝物精細 簿；2：愛宕郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟		解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
	QA-3624-36	◎《京都府宝物精細 簿；3：葛野郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟		解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
	QA-3624-37	◎《京都府宝物精細 簿；4：乙訓郡・紀 伊郡・宇治郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟		解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
	QA-3624-38	◎《京都府宝物精細 簿；5：久世郡・相 楽郡・綴喜郡・南桑 田郡・北桑田郡・船 井郡・天田郡・何鹿 郡・加佐郡・与謝 郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟		解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
10	QA-3624-39	◎《京都市宝物精細 簿；6：上京区・下 京区・土民・附各 郡》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟	1,658,572	解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
	QA-3624-40	◎《京都府史要参攷簿》		1冊	明治時代・19世紀	(一社)国宝修 理装演師連盟		解体、クリーニング、 補強、補紙、補修、 保存箱作製
	TA-339	山水図軸		1幅	南宋時代・13世紀	(株)文化財保存		解体、剥落止め、ク リーニング、裏打ち、 補彩、保存箱作製
11	TB-1438	傑山偈	古林清茂筆	1幅	元時代・泰定3年 (1326)	(株)松鶴堂	3,368,169	解体、剥落止め、ク リーニング、裏打ち、 補彩、保存箱作製
12	TJ-2977	灰陶壺	遼寧省営口市 蘆 家屯3号磚墓出土	1個	後漢時代・2世紀	繭山隆司	899,745	クリーニング、強 化・接合、補填、補 彩
13	TJ-2983	灰陶倉	遼寧省営口市 蘆 家屯3号磚墓出土	1個	後漢時代・2世紀	繭山隆司	755,535	解体、クリーニング、 強化・接合、補填、 補彩
	TJ-3004	灰陶倉（屋根）	遼寧省営口市 蘆 家屯3号磚墓出土	1個	後漢時代・2世紀	繭山隆司		解体、クリーニング、 強化・接合、補填、 補彩
14	TJ-2984	灰陶倉	遼寧省営口市 蘆 家屯3号磚墓出土	1個	後漢時代・2世紀	繭山隆司	748,935	解体、クリーニング、 強化・接合、補填、 補彩
	TJ-3005	灰陶倉（屋根）	遼寧省営口市 蘆 家屯3号磚墓出土	1個	後漢時代・2世紀	繭山隆司		解体、クリーニング、 強化・接合、補填、 補彩
15	TJ-2985	灰陶井戸	遼寧省営口市 蘆 家屯3号磚墓出土	1個	後漢時代・2世紀	繭山隆司	799,975	解体、クリーニング、 強化・接合、補填、 補彩

* 通番 6,7 は、東京国立博物館・文化財活用センター東京国立博物館創立 150 年記念 踊る埴輪&見返り美人修理プロジェクトの寄附金によって修理している。

(以下は令和4年4月から令和5年3月までに修理が完了した作品一覧)

No	列品番号	指定／名称	作者等／出土地	員数	時代	修理施工者	修理価格(円)	主な修理内容
1	A-1155	扇面雑画	酒井抱一筆	60面のうち15面	江戸時代・18～19世紀	(株)半田九清堂	2,990,680	本紙の取り外し、剥落止め、クリーニング、旧裏打ちの除去、新規裏打ち、マウント作業
2	I-721	◎小袖 白綾地秋草模様	尾形光琳筆	1領	江戸時代・18世紀	(株)松鶴堂	10,841,313	解体、補強、補修、旧修理の除去、裏地の新調、仕立て、保存箱作成
3	I-337-6	緑地目結文縹緞平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	77,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マット装
	I-337-7	緑地目結文縹緞平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館		ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
4	I-337-48	茶地震襷鳥文蔦縹平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	2,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
5	I-337-49	緑地震襷鳥文蔦縹平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	30,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、マウント作業
6	I-337-50	紫地海賦文蔦縹平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	2,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
7	I-337-54	緑地草花文蔦縹平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
8	I-337-57	淡青地草花文蔦縹平絹腰じ残欠		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	30,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、マウント作業
9	I-337-89	淡茶地集花文夾縹平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
10	I-337-90	淡茶地集花文夾縹平絹		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
11	I-337-109	茶地花葉文夾縹羅		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、マウント作業
12	I-337-134	紫地飛仙文綾天蓋垂飾残欠		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
13	I-337-135	紫地雲鳳文綾天蓋垂飾残欠		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
14	I-337-136	黄地花唐草文綾		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
15	I-337-137	紫地花唐草文綾幡足残欠		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	2,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業
16	I-337-171	紫地唐花文錦		1枚	奈良時代・8世紀	(独法)東京国立博物館	4,000	ガラス装の取り外し、糸目揃え、裏打ち、マウント作業

No	列品番号	指定／名称	作者等／出土地	員数	時代	修理施工者	修理価格(円)	主な修理内容
17	I-337-173	黄地唐花文錦		1 枚	奈良時代・8世紀	(独法) 東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、縁の処置、マウント作業
18	I-337-176	長斑花鳥文錦		1 枚	奈良時代・8世紀	(独法) 東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、縁の処置、マウント作業
19	I-337-196	黄地連珠入亀甲繁花文錦幡足垂端飾		1 枚	奈良時代・天平勝宝9歳(757)	(独法) 東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
	I-337-197	黄地花文錦幡足垂端飾		1 枚	奈良時代・天平勝宝9歳(757)	(独法) 東京国立博物館		ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
20	I-337-198	赤地唐花文錦幡足垂端飾		1 枚	奈良時代・天平勝宝9歳(757)	(独法) 東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
	I-337-199	白茶地花文錦幡足垂端飾		1 枚	奈良時代・天平勝宝9歳(757)	(独法) 東京国立博物館		ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
21	I-337-200	赤地唐花文錦幡足垂端飾		1 枚	奈良時代・天平勝宝9歳(757)	(独法) 東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
	I-337-201	緑地唐花文錦幡足垂端飾		1 枚	奈良時代・天平勝宝9歳(757)	(独法) 東京国立博物館		ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
22	I-337-233	淡纁地唐花文錦		1 枚	奈良時代・8世紀	(独法) 東京国立博物館	50,000	ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
	I-337-234	黄緑地目結文纁纁平絹		1 枚	奈良時代・8世紀	(独法) 東京国立博物館		ガラス装の取り外し、クリーニング、整形、マウント作業
23	J-1474	石棒	長野県駒ヶ根市赤穂(美女ヶ森)出土	1 個	縄文時代(中期)・前3000～前2000年	(株)東京都文化財保存研究所	100,000	クリーニング、表面および破断面の強化、接合
24	J-7822	埴輪 馬	群馬県伊勢崎市下触町出土	1 個	古墳時代・6世紀	蒔山隆司	2,998,490	解体、旧補の除去、クリーニング、破断・亀裂部分の強化、接合・欠失部の補填、復元、補彩、支持具作製
25	QB-30	大三川志	源頼寛筆	109 冊	江戸時代・宝暦13年(1763)	(有)東京修復保存センター	10,679,482	解体、整形、クリーニング、固定、リーフキャストニング、裁断、補修、製本
26	TA-693-72	カシミール様式写本	インド	1 冊	19世紀前半	(株)Conservation for Identity	270,000	ドライクリーニング、解体、本紙の縫いや補強、表紙の補正、再接着、再固定

令和３年度 対症修理作品一覧

No.	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
1	A-273	不動明王二童子像	1 幅	虫損部繕い、折れ伏せ	山田祐子、AF
2	A-482	若衆方役者図	1 幅	カビ払い	AF
3	A-593	瀬川菊之丞図	1 幅	糊差し	AF
4	A-697	夕日の港	1 面	ワニス除去、塗布補彩	土師絵画工房
5	A-714	スコットランド高地に潜むチャールズ・エドワード王子	1 面	クリーニング、ワニス除去、裏打ち接着、充填、補彩、ワニス塗布	土師絵画工房
6	A-736	水汲み婦、ブラバンの夕暮れ	1 面	クリーニング、ワニス除去、額の欠損部補修、補填、補彩、ワニス塗布	土師絵画工房
7	A-743-1	五百羅漢図 第一幅 名相	1 幅	軸木・八双補修、折れ伏せ	山田祐子、AF
8	A-743-2	五百羅漢図 第二幅 名相	1 幅	八双補修、虫損部繕い	山田祐子、AF
9	A-743-3	五百羅漢図 第三幅 名相	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
10	A-743-4	五百羅漢図 第四幅 名相	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
11	A-743-5	五百羅漢図 第五幅 浴室	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
12	A-743-6	五百羅漢図 第六幅 授戒	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
13	A-743-7	五百羅漢図 第七幅 布薩	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
14	A-743-8	五百羅漢図 第八幅 論議	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
15	A-743-9	五百羅漢図 第九幅 剃度	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
16	A-743-10	五百羅漢図 第十幅 伏外道	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
17	A-743-12	五百羅漢図 第十二幅 六道 地獄	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
18	A-743-13	五百羅漢図 第十三幅 六道 鬼趣	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
19	A-743-14	五百羅漢図 第十四幅 六道 鬼趣	1 幅	八双補修・フラットニング	山田祐子、AF
20	A-743-17	五百羅漢図 第十七幅 六道 人	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
21	A-743-18	五百羅漢図 第十八幅 六道 人	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
22	A-743-19	五百羅漢図 第十九幅 六道 天	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
23	A-743-20	五百羅漢図 第二十幅 六道 天	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
24	A-743-21	五百羅漢図 第二十一幅 十二頭陀 阿蘭若	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
25	A-743-22	五百羅漢図 第二十二幅 十二頭陀 常乞食・次第乞食	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
26	A-743-24	五百羅漢図 第二十四幅 十二頭陀 衲衣・但三衣	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
27	A-743-26	五百羅漢図 第二十六幅 神通	1 幅	軸木・八双補修	山田祐子、AF
28	A-743-27	五百羅漢図 第二十七幅 神通	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
29	A-743-28	五百羅漢図 第二十八幅 神通	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
30	A-743-29	五百羅漢図 第二十九幅 神通	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
31	A-743-30	五百羅漢図 第三十幅 神通	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
32	A-743-31	五百羅漢図 第三十一幅 禽獣	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
33	A-743-32	五百羅漢図 第三十二幅 禽獣	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
34	A-743-33	五百羅漢図 第三十三幅 禽獣	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
35	A-743-34	五百羅漢図 第三十四幅 禽獣	1 幅	八双補修	山田祐子、AF

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
36	A-743-36	五百羅漢図 第三十六幅 龍供	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
37	A-743-37	五百羅漢図 第三十七幅 龍供	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
38	A-743-38	五百羅漢図 第三十八幅 洗仏等・洗舍利	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
39	A-743-39	五百羅漢図 第三十九幅 堂伽藍	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
40	A-743-40	五百羅漢図 第四十幅 堂伽藍	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
41	A-743-41	五百羅漢図 第四十一幅 七難 震	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
42	A-743-42	五百羅漢図 第四十二幅 七難 風	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
43	A-743-43	五百羅漢図 第四十三幅 七難 羅刹・悪鬼	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
44	A-743-44	五百羅漢図 第四十四幅 七難 刀杖・賊	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
45	A-743-45	五百羅漢図 第四十五幅 七難 枷鎖・盗	1 幅	軸棒・八双補修、虫損部再補修、折れ伏せ	山田祐子、AF
46	A-743-46	五百羅漢図 第四十六幅 四州 南	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
47	A-743-47	五百羅漢図 第四十七幅 四州 南	1 幅	八双補修、虫損部補修	山田祐子、AF
48	A-743-48	五百羅漢図 第四十八幅 四州 東	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
49	A-743-49	五百羅漢図 第四十九幅 四州 西	1 幅	八双補修	山田祐子、AF
50	A-743-50	五百羅漢図 第五十幅 四州 北	1 幅	八双補修、虫損部補修	山田祐子、AF
51	A-752	聖観音像	1 幅	八双・風帯補修	AF
52	A-774	鷹狩図	2 幅	表装裂糊差し	AF
53	A-822	男舞図	1 幅	保存箱作製	米倉乙世
54	A-1086-1	住吉広守像	1 幅	糊差し、軸首付け	AF
55	A-1086-2	住吉広行像	1 幅	糊差し、軸首付け	AF
56	A-1086-3	板谷広当像	1 幅	糊差し、軸首付け	AF
57	A-1156	墨梅図	1 幅	鉛除去、軸袋補修、フラットニング、中性紙製太巻作製	AF
58	A-1198	紅梅椿図	1 幅	表装裂の糊差し、フラットニング	AF
59	A-1230	普賢延命像	1 幅	軸木の鉛除去	AF
60	A-1472-1	法隆寺金堂壁画（模本）羅漢図一	1 巻	フラットニング、表装糊差し	AF
61	A-1602-1	佐竹本三十六歌仙絵巻 巻上（模本）	1 巻	表装裂の糊差し、軸木調整、軸首欠失部の新調	AF
62	A-1602-2	佐竹本三十六歌仙絵巻 巻下（模本）	1 巻	表装裂の糊差し、軸木調整	山田祐子、AF
63	A-2414-1	牛図（模本）	1 幅	フラットニング、折れ伏せ	AF
64	A-5519	竹図（模写）	1 幅	本紙・表装糊差し	AF
65	A-5526	竹石図（模写）	1 幅	本紙・表装糊差し	AF
66	A-5546	墨竹図（模写）	1 巻	本紙・表装糊差し	AF
67	A-6390-3	羅漢図（模本）	1 枚	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
68	A-6390-4	羅漢図（模本）	1 枚	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
69	A-9124-65	名所江戸百景・堀切の花菖蒲	1 枚	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
70	A-9272	長久手合戦図屏風下絵	8 枚	中性紙製太巻作製	AF

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
71	A-9977	百合若物語絵巻	3 巻	保存箱作製	米倉乙世
72	A-10005-22	猩々舞	1 面	本紙糊差し	AF
73	A-10010-12	蝙蝠	1 面	カビ除去	AF
74	A-10569-61	追羽子	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
75	A-10569-100	夜雨神詣美人 見立蟻通明神	1 枚	マット装	桐原瑛奈
76	A-10569-360	江戸花京橋名取	1 枚	マット装	桐原瑛奈
77	A-10569-451	二代目嵐龍蔵の不破が下部浮世又平と三代目大谷広次の名護屋が下部土佐の又平	1 枚	マット装	桐原瑛奈
78	A-10569-473	◎三代目坂東彦三郎の鷲坂左内	1 枚	マット装	桐原瑛奈
79	A-10569-491	成田屋三舛 六代目市川団十郎の荒川太郎 武貞	1 枚	額はずし	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
80	A-10569-674	百物語・しうねん	1 枚	額装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
81	A-10569-810, 811, 812	三囲神社の夕立	3 枚	マット装	桐原瑛奈
82	A-10569-1277	見立巢父	1 枚	マット装	桐原瑛奈
83	A-10569-1390	桃太郎	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
84	A-10569-1403	加治ヶ濱力右衛門・関ノ戸八郎治・行事 木村庄之助	1 枚	マット装、額入れ	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
85	A-10569-1922, 1923, 1924	屋根船四手綱	3 枚	マット装	桐原瑛奈
86	A-10569-2596	大橋下の涼み船	1 枚	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
87	A-10569-2597	高輪海岸美人散歩	1 枚	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
88	A-10569-3183	義経一代記之内・問道に趣て義経鶴越の 峻峻難所をよち登る	1 枚	マット装、額入れ	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
89	A-10569-3300	生写四十八鷹・せきれい 水仙	1 枚	マット装	桐原瑛奈
90	A-10569-3350	生写四十八鷹・ぶん鳥 桃花	1 枚	マット装	桐原瑛奈
91	A-10569-3538, 3539, 3540	大木の下の雨宿り	3 枚	マット装	桐原瑛奈
92	A-10569-3884	初代尾上菊五郎の月さよと三代目沢村長十郎の栗津六郎左衛門	1 枚	マット装、補紙、補彩	桐原瑛奈
93	A-10569-3885	初代瀬川菊之丞と八代目市村宇左衛門	1 枚	マット装	桐原瑛奈
94	A-10569-3910	両国橋茶屋の納涼美人	1 枚	マット装、補紙	桐原瑛奈
95	A-10569-3967	乱菊枕慈童	1 枚	マット装	桐原瑛奈
96	A-10569-3981	猿蟹	1 枚	額外し	桐原瑛奈、川添愛奈
97	A-10569-4017	見立菊慈童	1 枚	マット装	桐原瑛奈
98	A-10569-4042	端午節句	1 枚	マット装	桐原瑛奈
99	A-10569-4235	牛若丸縄渡り	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
100	A-10569-4293	瓢箪に駒	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
101	A-10569-4312	菊慈童	1 枚	マット装	桐原瑛奈

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
102	A-10569-4383	端午	1 枚	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
103	A-10569-4398	美人子供に小犬	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
104	A-10569-4439	諸国名所風景 相州 江ノ島 漁船	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
105	A-10569-4547	風流五節句・菊	1 枚	マット装	桐原瑛奈
106	A-10569-4587	假名手本忠臣蔵・七段目	1 枚	マット装	桐原瑛奈
107	A-10569-4916	猫に蝶	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
108	A-10569-5400	大願成就有ヶ瀧竊・金閣寺	1 枚	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
109	A-10569-5460	其面影程能寫繪・弁けい	1 枚	マット装、額入れ	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
110	A-10569-5612	亀の大弓	1 枚	マット装	川添愛奈
111	A-10569-5990	かつしか五節句・大原女	1 枚	マット装	桐原瑛奈・川添愛奈
112	A-10569-6031	梅の枝持てる美人	1 枚	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
113	A-10569-6109	三十六禽続・猫に蝶	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
114	A-10569-6169	馬	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
115	A-10569-6197	寿五番ノ内・菊慈童	1 枚	マット装	桐原瑛奈
116	A-10569-6354	風俗女水滸傳百八番之内・かわらけ投げ	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
117	A-10569-6361	二代目岩井糸三郎	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
118	A-10569-6567	宇治拾遺物語・御堂関白殿の犬	1 枚	マット装	桐原瑛奈
119	A-10569-7090	東海道五十三次之内・平塚 縄手道	1 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
120	A-10569-7545	富士三十六景・駿河薩タ之海上	1 枚	マット装	桐原瑛奈
121	A-10569-7798	不二三十六景・東都江戸橋日本橋	1 枚	マット装	桐原瑛奈
122	A-10569-7799	宇治拾遺物語・御堂関白殿の犬	1 枚	マット装	桐原瑛奈
123	A-10569-7807	不二三十六景・上総木更津海上	1 枚	マット装	桐原瑛奈
124	A-10569-7816	不二三十六景・伊豆の海濱	1 枚	マット装	桐原瑛奈
125	A-10569-7980	江戸高名會亭盡・木母寺雪見 植木屋	1 枚	マット装	桐原瑛奈
126	A-11094-1	江戸名所・御殿山景	1 枚	マット装	桐原瑛奈
127	A-11094-7	江戸名所・東叡山之景	1 枚	マット装	桐原瑛奈
128	A-11196-71	江戸名所百人美女・三囲	1 枚	マット装、欠損部補紙・補彩	桐原瑛奈
129	A-11762-1	遊女と客	1 枚	マット装	桐原瑛奈
130	A-12339	画室	1 面	画面洗浄、ワニス塗布	土師絵画工房、高橋志歩
131	A-12340	母子	1 面	画面、額縁のクリーニング、彩色層の浮き上がり接着、ワニス塗布、ガンタッカーによる間打ち、額入れ、錆びた釘の除去、ステンレス金具への変更	土師絵画工房、高橋志歩
132	A-12372-371	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
133	A-12372-374	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング、補修	山田祐子
134	A-12372-375	板谷家伝来資料	1 枚	裏打ち、補修、プレス乾燥	山田祐子

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
135	A-12372-378	板谷家伝来資料	1 枚	継ぎ外し、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
136	A-12372-379	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
137	A-12372-395	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
138	A-12372-397	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、裂けあて	山田祐子
139	A-12372-399	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング、補修	山田祐子
140	A-12372-400	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング、補修	山田祐子
141	A-12372-402	板谷家伝来資料	1 枚	継ぎ直し、補修、プレス	山田祐子
142	A-12372-406	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、皺伸ばし、補修、継ぎ直し	山田祐子
143	A-12372-409	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修	山田祐子
144	A-12372-412	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修	山田祐子
145	A-12372-418	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
146	A-12372-419	板谷家伝来資料	1 枚	皺伸ばし、補修	山田祐子
147	A-12372-420	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング	山田祐子
148	A-12372-421	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
149	A-12372-422	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
150	A-12372-423	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、補修、継ぎ直し	山田祐子
151	A-12372-425	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング、補修	山田祐子
152	A-12372-427	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、補修、継ぎ直し	山田祐子
153	A-12372-429	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
154	A-12372-430	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング	山田祐子
155	A-12372-431	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、虫糞除去、補修	山田祐子
156	A-12372-432	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
157	A-12372-434	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
158	A-12372-435	板谷家伝来資料	1 枚 (2 紙)	フラットニング、補修、肌裏打ち、プレス乾燥、継ぎ直し	山田祐子
159	A-12372-436	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング	山田祐子
160	A-12372-441	板谷家伝来資料	2 枚	フラットニング、補修	山田祐子
161	A-12372-442	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修	山田祐子
162	A-12372-443	板谷家伝来資料	1 枚	継ぎ外し、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
163	A-12372-444	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、補修	山田祐子
164	A-12372-445	板谷家伝来資料	7 紙	虫糞除去、剥落止め、旧補修除去、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
165	A-12372-446	板谷家伝来資料	3 枚	虫糞除去、剥落止め、旧補修除去、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
166	A-12372-447	板谷家伝来資料	3 枚	クリーニング、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
167	A-12372-448	板谷家伝来資料	4 枚	クリーニング、フラットニング、継ぎ直し、虫糞除去、補修	山田祐子
168	A-12372-449	板谷家伝来資料	10 紙	剥落止め、フラットニング、旧補紙除去、補修、継ぎ直し	山田祐子
169	A-12372-450	板谷家伝来資料	3 枚	剥落止め、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
170	A-12372-451	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング	山田祐子
171	A-12372-452	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
172	A-12372-453	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、クリーニング、補修、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
173	A-12372-454	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
174	A-12372-455	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
175	A-12372-456	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
176	A-12372-457	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
177	A-12372-458	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
178	A-12372-459	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
179	A-12372-462	板谷家伝来資料	14 紙	剥落止め、クリーニング、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
180	A-12372-463	板谷家伝来資料	5 紙	剥落止め、クリーニング、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
181	A-12372-464	板谷家伝来資料	1 枚 (4 紙)	剥落止め、継ぎ解体、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
182	A-12372-465	板谷家伝来資料	1 枚 (5 紙)	継ぎ外し、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
183	A-12372-470	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
184	A-12372-471	板谷家伝来資料	1 枚 (4 紙)	剥落止め、クリーニング、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
185	A-12372-472	板谷家伝来資料	1 枚 (6 紙)	クリーニング、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
186	A-12372-476	板谷家伝来資料	1 枚 (2 紙)	剥落止め、フラットニング、継ぎ直し	山田祐子
187	A-12372-478	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、クリーニング、補修	山田祐子
188	A-12372-479	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、クリーニング、補修	山田祐子
189	A-12372-480	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
190	A-12372-481	板谷家伝来資料	1 枚 (5 紙)	剥落止め、クリーニング、フラットニング、補修、継ぎ直し	山田祐子
191	A-12372-482	板谷家伝来資料	1 枚 (部分)	フラットニング、クリーニング	山田祐子

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
192	A-12372-483	板谷家伝来資料	1 枚 (部分)	剥落止め、クリーニング、フラット ニング、補修	山田祐子
193	A-12372-488	板谷家伝来資料	3 枚	剥落止め、フラットニング、補修、 継ぎ直し	山田祐子
194	A-12372-491	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
195	A-12372-495	板谷家伝来資料	1 枚 (2 紙)	フラットニング、クリーニング、継 ぎ直し	山田祐子
196	A-12372-497	板谷家伝来資料	1 枚 (2 紙)	剥落止め、フラットニング、継ぎ直 し	山田祐子
197	A-12372-498	板谷家伝来資料	1 枚 (2 紙)	剥落止め、補修、フラットニング	山田祐子
198	A-12372-499	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング、補 修	山田祐子
199	A-12372-500	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、補修	山田祐子
200	A-12372-501	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング	山田祐子
201	A-12372-502	板谷家伝来資料	1 枚 (2 紙)	剥落止め、フラットニング、継ぎ直 し	山田祐子
202	A-12372-504	板谷家伝来資料	2 紙	剥落止め、フラットニング	山田祐子
203	A-12372-505	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、補修、フラットニン グ	山田祐子
204	A-12372-506	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
205	A-12372-510	板谷家伝来資料	1 枚 (3 紙)	剥落止め、フラットニング、補修、 裂けあて	山田祐子
206	A-12372-511	板谷家伝来資料	1 枚	クリーニング、フラットニング	山田祐子
207	A-12372-512	板谷家伝来資料	1 枚 (5 紙)	クリーニング、フラットニング	山田祐子
208	A-12372-513	板谷家伝来資料	1 枚 (3 紙)	クリーニング、フラットニング、補 修	山田祐子
209	A-12372-514	板谷家伝来資料	2 枚 (4 紙)	剥落止め、フラットニング	山田祐子
210	A-12372-515	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
211	A-12372-519	板谷家伝来資料	1 枚	フラットニング、プレス乾燥	山田祐子
212	A-12372-522	板谷家伝来資料	1 枚	剥落止め、フラットニング	山田祐子
213	A-12457-1	大嘗会和歌御屏風（明和元年度悠紀方甲 帖・正二月）	6 曲 1 隻	椽木剥落止め・固定、補彩、オゼ糊 差し	足立収一、AF、保存修復 課
214	A-12457-8	大嘗会和歌御屏風（明和元年度主基方乙 帖・三四月）	6 曲 1 隻	椽木剥落止め・補彩、クリーニング、 オゼ糊差し	足立収一、AF、保存修復 課
215	A-12460-4	大嘗会和歌御屏風（文政元年度悠紀方丁 帖・七八月）	6 曲 1 隻	椽木剥落止め・補彩、クリーニング、 裏張り糊差し、オゼ糊差し、オゼ補 紙	足立収一、AF、保存修復 課
216	A-12460-10	大嘗会和歌御屏風（文政元年度主基方己 帖・十一十二月）	6 曲 1 隻	損傷箇所・欠失箇所繕い、椽木剥落 止め・補彩、クリーニング、ラベル 固定、裏張り糊差し、オゼ糊差し、 オゼ補紙	足立収一、AF、保存修復 課
217	A-12463	日課観音図	1 幅	展示具作製	米倉乙世
218	A-12480	平安神宮下絵	1 枚	フラットニング、糊差し、保存箱作 製	AF

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
219	B-1769	◎徳川幕府琉球往復書翰 模本	1 箱	保存箱修理（新補財・遊離部接合、ラベル固定・再接着、補彩）	足立収一、保存修復課
220	B-2754	書巻	1 箱	保存箱外箱修理（欠損部の補填、補填箇所の接着・研磨）	足立収一
221	B-2814	●古今和歌集（元永本）	2 冊	保存箱作製	米倉乙世
222	B-2941	略血詩	1 箱	保存箱修理（釘・テープ除去、接合部修正、後補修正）	足立収一
223	B-3009	聚楽第行幸和歌巻	1 巻	保存箱作製	米倉乙世
224	B-3049	◎和漢朗詠集	1 箱	保存箱修理（再接着、新補、補彩、充填）	足立収一
225	B-3178-1	●医心方 巻第一 治病大体部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
226	B-3178-2	●医心方 巻第二 忌鍼灸部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
227	B-3178-3	●医心方 巻第三 中風部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
228	B-3178-4	●医心方 巻第四 鬢髪部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
229	B-3178-5	●医心方 巻第五 頭面部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
230	B-3178-6	●医心方 巻第六 胸腹痛部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
231	B-3178-7	●医心方 巻第七 陰瘡并穀道部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
232	B-3178-8	●医心方 巻第八 手足部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
233	B-3178-9	●医心方 巻第九 咳嗽部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
234	B-3178-10	●医心方 巻第十 積聚并水腫部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
235	B-3178-11	●医心方 巻第十一 霍乱并下痢部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
236	B-3178-12	●医心方 巻第十二 消渴并大小便部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
237	B-3178-13	●医心方 巻第十三 五労七傷部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
238	B-3178-14	●医心方 巻第十四 治卒死并傷寒部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
239	B-3178-15	●医心方 巻第十五 癰疽部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
240	B-3178-16	●医心方 巻第十六 腫物部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
241	B-3178-17	●医心方 巻第十七 丹毒瘡部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
242	B-3178-18	●医心方 巻第十八 湯火并灸不愈部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
243	B-3178-19	●医心方 巻第十九 服石部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
244	B-3178-20	●医心方 卷第二十 服石諸病部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
245	B-3178-21	●医心方 卷第二十一 婦人部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
246	B-3178-22	●医心方 卷第二十二 婦人部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
247	B-3178-23	●医心方 卷第二十三 産婦部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
248	B-3178-24	●医心方 卷第二十四 治無子部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
249	B-3178-25	●医心方 卷第二十五の一 小児部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
250	B-3178-26	●医心方 卷第二十五の二 小児部別巻	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
251	B-3178-27	●医心方 卷第二十六 延年部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
252	B-3178-28	●医心方 卷第二十六 延年部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
253	B-3178-29	●医心方 卷第二十八 房内部	1 冊	展示具作製	米倉乙世
254	B-3178-30	●医心方 卷第二十九 飲食部	1 巻	展示具作製	米倉乙世
255	B-3178-31	●医心方 卷第三十 証類部	1 巻	展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、高橋志歩、AF
256	B-3178-32-1	●医心方 半井広国書状写 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
257	B-3178-32-2	●医心方 書状一括包紙 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 紙	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
258	B-3178-32-3	●医心方 五月朔日若年寄本多越中守忠徳他連署差紙写 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 紙	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
259	B-3178-32-4	●医心方 五月二日御目付中差紙写 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
260	B-3178-32-5	●医心方 五月二日矢代久喜・久益願書写 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
261	B-3178-32-6	●医心方 半井広国書状写 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
262	B-3178-32-7	●医心方 五月二日差紙写 附 江戸幕府借用関係文書のうち	1 紙	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
263	B-3178-33-1	医心方 鳥文次郎筆半井好和宛預状 明治以降半井好和関連文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
264	B-3178-33-2	医心方 菊池大麓筆半井好和宛挨拶状 明治以降半井好和関連文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
265	B-3178-33-3	医心方 今井貫一筆半井好和宛書簡 明治以降半井好和関連文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
266	B-3178-33-6	光康一見についての半井好和覚書 明治以降半井好和関連文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
267	B-3178-33-7	半井好和覚書 明治以降半井好和関連文書のうち	1 通	マット装	米倉乙世、桐原瑛奈
268	B-3178	医心方 付属品	1 箱	展示のため調整	米倉乙世

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
269	B 寄託	曾根好忠集断簡（曾丹集切）	1 幅	左軸首の固定、表装補修、フラットニング	AF
270	B 寄託	偈頌	1 幅	紐交換	AF
271	C-15	◎十二神将立像（辰神）	1 軀	クリーニング、割損部接着	（公財）美術院
272	C-95	善財童子立像	1 軀	クリーニング、彩色層強化、台座作製、新補、補彩、剥落止め、後補部再接着	吉備文化財修復所、宮城加奈子、足立収一、保存修復課
273	C-231	観音菩薩倚像	1 面	金具の整形、接着	中村大朋、保存修復課
274	C-522	菅公像	1 軀	接着、ドライクリーニング	保存修復課
275	C-541	ジェンナー像	1 軀	クリーニング、ブロンズ病予防処置、充填、補彩	おいかわ美術修復
276	C-1854-1	◎文殊菩薩坐像（文殊菩薩騎獅像および侍者立像のうち）	1 軀	クリーニング、割損部接着	（公財）美術院
277	C-1878	◎十二神将立像 申神	1 軀	旧接着剤除去、ダボ作製、補彩	保存修復課
278	C 寄託	宝冠釈迦如来坐像 光背	1 面	旧接着剤・竹釘の除去、旧柄穴の補填、欠損部新補、接合、強化、剥落止め	足立収一、保存修復課
279	F-105-1	太刀 銘 備州国友成	1 口	研継、割鞘	小野敬博、森井敦央
280	F-251	脇指 銘 相模国吉広	1 口	研継、割鞘	小野敬博、森井敦央
281	F-253	短刀 銘 時計紋	1 口	研継、割鞘	小野敬博、森井敦央
282	F-312	短刀 銘 春日大明神奉実近安芸国住 明德二二年八月日（棟二）光世作	1 口	研継、割鞘	小野敬博、森井敦央
283	F-15828	脇指 銘 備州長船康光 応永卅五年二月日	1 口	割鞘	森井敦央
284	F-20212	矢羽	36 枚	展示具作製	米倉乙世
285	G-116	色絵山水人物文茶碗	1 口	ラベル除去	保存修復課
286	G-263	色絵秋草図茶碗	1 口	ラベル除去	保存修復課
287	G-316	白雲山字茶碗「白雲山」彫「空中」彫 銘「仁阿弥写」彫銘	1 口	ラベル除去	保存修復課
288	G-563	色絵四君子図茶碗	1 口	ラベル除去	保存修復課
289	G-4280	染付山水図皿	10 枚のうち 1 枚	破損部接着、補填、補彩、ワニス塗布	北野珠子、藤井茉弥
290	H-547	黒漆葡萄栗鼠螺鈿簪	1 腰	ドライクリーニング、剥離止め、漆塗膜の含浸強化	(株)小西美術工藝社
291	4488	樹下人物螺鈿沈金食籠	1 合	ドライクリーニング、剥離止め、漆塗膜の含浸強化	(株)小西美術工藝社
292	I-2705	親王雛	1 対	保存箱見直し	(株)資料保存器材、保存修復課
293	I-2706	親王雛	1 対	保存箱見直し	(株)資料保存器材、保存修復課
294	I-2707	親王雛	1 対	保存箱見直し	(株)資料保存器材、保存修復課
295	I-3848-315	髪飾具 ガラス簪	1 本	破損部接着	足立収一、保存修復課
296	I-3848	髪飾具 鼈甲かざり	1 点	破損部接着、クリーニング	足立収一、保存修復課
297	I-3887	小袖 紅縮緬地鳥兜紅葉模様	1 領	ほつれ処置	保存修復課

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
298	I 資料	大彦たとう	1 式	ドライクリーニング、セロハンテープ除去、補強	高橋志歩
299	J-36694	深鉢形土器残欠	1 個	旧接合部の強化、クリーニング	保存修復課
300	J-6478	陶棺	1 個	破損部・破断面の強化	保存修復課
301	J-9307	獣帯鏡	1 面	補彩	石原道知
302	J-9309	三角緑二神二獣鏡	1 面	補彩	石原道知
303	J 寄託	石上神宮鉄盾保存箱	1 箱	銚金具取り外し、天板の解体、新補、研磨、銚金具の留め直し	足立収一、保存修復課
304	J 寄託	筒形土偶	1 個	旧接合部強化	保存修復課
305	K-25967	桑布	1 反	ドライクリーニング、保存箱作製	(株)修護
306	K-25968	桑経	1 把	ドライクリーニング、保存箱作製	(株)修護
307	K-25969	桑皮	1 把	ドライクリーニング、保存箱作製	(株)修護
308	K-26005	百田紙	40 枚 1 帖、10 折	ドライクリーニング、フラットニング、保存箱作製	(株)修護
309	K-26006	杉原紙	40 枚 1 帖、10 折	ドライクリーニング、フラットニング、保存箱作製	(株)修護
310	P-214	靄崖筆塚之銘	1 幅	紐替え	AF
311	P-1083	南無仏篆印譜	1 幅	巻紐設置、フラットニング、糊差し、附封筒補修	AF
312	P-1451	吉原燈籠銘拓本	1 巻	フラットニング	AF
313	P-2025	旗指物等図	1 冊	題箋剥れ糊差し	AF
314	P-2323	飛雲閣紙製模型 保存箱	1 個	部材の整形、遊離部、新補部接着、補彩、ラベル固定	足立収一
315	P-2326	京都大仏殿絵図 保存箱	1 個	欠損部補填、組み直し、補彩	足立収一、保存修復課
316	P-2906-1	◎日本沿海興地図（中図）北海道東部	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
317	P-2906-2	◎日本沿海興地図（中図）北海道西部	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、AF
318	P-2906-3	◎日本沿海興地図（中図）東北	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
319	P-2906-4	◎日本沿海興地図（中図）関東	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
320	P-2906-5	◎日本沿海興地図（中図）中部・近畿	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
321	P-2906-7	◎日本沿海興地図（中図）九州北部	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
322	P-2906-8	◎日本沿海興地図（中図）九州南部	1 舗	フラットニング、展示具作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
323	P-3173	日蓮上人五百五十年紀碑拓本	1 舗	フラットニング	AF
324	P-3720	道化十二支の見立	2 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
325	P-3775	青物魚軍勢大合戦之図	3 枚	マット装	桐原瑛奈、川添愛奈
326	P-2321	高台寺傘茶屋起絵図	1 組	解体	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
327	P-2329	京都建仁寺正伝院茶室起絵図	1組	解体	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈、AF
328	P 未整理 X-02-20130306-004	考古遺物模写	1箱	クリーニング、貼り戻し、フラットニング、糊差し、虫損部仮補填、中性紙保存箱作製	(株)修護
329	古写真 44	愛宕山	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
330	古写真 45	築地	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
331	古写真 46	浜離宮	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
332	古写真 47	浜離宮	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
333	古写真 48	浜離宮	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
334	古写真 49	浜離宮	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
335	古写真 50	延遠館	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
336	古写真 55-1	上野不忍池	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
337	古写真 53	芝明神	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
338	古写真 54	東京運上所	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
339	古写真 56	九段坂牛ヶ淵	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
340	古写真 57	九段坂	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
341	古写真 159	日光霜降橋遠望	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
342	古写真 160	日光神橋並通用橋	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
343	古写真 161	日光神橋	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
344	古写真 162	日光輪王寺庭前	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
345	古写真 163	日光輪王寺庭前	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
346	古写真 164	日光輪王寺庭並茶亭	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
347	古写真 166	日光東照宮仁王門	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
348	古写真 167	日光東照宮水屋	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
349	古写真 169	日光東照宮陽明門	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
350	古写真 170	日光東照宮陽明門	1枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
351	古写真 171	日光東照宮陽明門	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
352	古写真 173	日光東照宮神楽殿	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
353	古写真 174	日光東照宮唐門	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
354	古写真 175	日光東照宮唐門	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
355	古写真 176	日光東照宮將軍廟所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
356	古写真 177	日光輪王寺	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
357	古写真 179	日光中禪寺馬返	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
358	古写真 181	日光御沢	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
359	古写真 183	日光寂光滝	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
360	古写真 185	日光中禪寺湖	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
361	古写真 186	日光中禪寺湖	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
362	古写真 187	日光中禪寺湖辺行屋・男体山	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
363	古写真 462-1	富岡製糸場遠望	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
364	古写真 463-1	富岡製糸場	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
365	古写真 464-1	富岡製糸場 建設中の東置繭所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
366	古写真 465-1	富岡製糸場 繰糸所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
367	古写真 466-1	富岡製糸場 煙突	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
368	古写真 468-1	富岡製糸場 繰糸所内部	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
369	古写真 469-1	富岡製糸場 繰糸所内部	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
370	古写真 470-1	富岡製糸場 繰糸所内部	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
371	古写真 471-1	富岡製糸場構内	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
372	古写真 472-1	富岡製糸場 繰糸所内部	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
373	古写真 473-1	富岡製糸場 蒸気釜所・煙突	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
374	古写真 504-1	寛永寺 常憲院拝殿唐門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
375	古写真 513-1	寛永寺 二ノ霊屋水屋	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
376	古写真 515-1	寛永寺 一ノ霊屋唐門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
377	古写真 519-1	寛永寺 鐘楼堂	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
378	古写真 520-1	寛永寺 俊明院宝塔前門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
379	古写真 521-1	寛永寺 俊明院拝殿唐門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
380	古写真 522-1	寛永寺 慈眼堂	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
381	古写真 523-1	寛永寺 有徳院宝塔門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
382	古写真 547	京都大仏鐘	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
383	古写真 548	清水	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
384	古写真 549	眼鏡橋	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
385	古写真 550	東大谷	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
386	古写真 551-1	布引谷	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
387	古写真 555	神戸居留地	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
388	古写真 556	神戸関税	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
389	古写真 557	神戸病院	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
390	古写真 558	神戸居留地	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
391	古写真 559	神戸居留地	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
392	古写真 560	神戸集会所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
393	古写真 563	天満橋	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
394	古写真 564	高麗橋	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
395	古写真 565-1	住吉反橋	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
396	古写真 566	住吉大社石燈籠	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
397	古写真 567	長崎興福寺	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
398	古写真 568	長崎出島	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
399	古写真 569	近江国唐崎松	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
400	古写真 570	鹿児島市街	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
401	古写真 571	磯紡績所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
402	古写真 574	函館	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
403	古写真 577	函館市街	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
404	古写真 582	増上寺 二代將軍唐門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
405	古写真 583	増上寺 二代將軍総門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
406	古写真 584	増上寺 二代將軍勅額門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
407	古写真 585	増上寺 二代將軍総門	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
408	古写真 1367-1	京都御所紫宸殿壬申検査関係写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
409	古写真 1368	京都御所紫宸殿	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
410	古写真 1369	京都御所紫宸殿後面	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
411	古写真 1370-1	京都御所紫宸殿後面壬申検査関係写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
412	古写真 1371-1	京都御所清涼殿壬申検査関係写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
413	古写真 1372	京都御所清涼殿	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
414	古写真 1374-1	京都御所内侍所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
415	古写真 1376	京都御所小御所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
416	古写真 1377	京都御所小御所庭	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
417	古写真 1378	京都御所常御殿	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
418	古写真 1379	京都御所御学問所	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
419	古写真 1380	京都御所常御殿南面	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
420	古写真 1381	京都御所参内殿	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
421	古写真 1382	京都御所内侍所同仮殿御鳳輦部屋	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
422	古写真 1383	東寺五重塔	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
423	古写真 1384	東寺大師堂	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
424	古写真 1386	広隆寺太子堂	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
425	古写真 1390	清涼寺釈迦堂	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
426	古写真 1443	熱田神宮一鳥居	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
427	古写真 1444	熱田神宮八剣神社	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
428	古写真 1445	熱田神宮	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
429	古写真 1446	真福寺	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
430	古写真 1447	名古屋城	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
431	古写真 1448	名古屋城	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
432	古写真 1449	名古屋城天守閣	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
433	古写真 1450	伊勢神宮	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
434	古写真 1451	伊勢神宮	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
435	古写真 1452	伊勢神宮	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
436	古写真 1453	伊勢神宮	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
437	古写真 2087	文久遣欧使節写真 竹内保徳	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
438	古写真 2088	文久遣欧使節写真 松平康英	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
439	古写真 2089	文久遣欧使節写真 京極高朗	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
440	古写真 2090	文久遣欧使節写真 竹	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
441	古写真 2091	文久遣欧使節写真 竹	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
442	古写真 2092	文久遣欧使節写真 竹	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
443	古写真 2093	文久遣欧使節写真 福地源一郎	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
444	古写真 2094	文久遣欧使節写真 福田作太郎	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
445	古写真 2095	文久遣欧使節写真 日高圭三郎	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
446	古写真 2096	文久遣欧使節写真 竹	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
447	古写真 2097	文久遣欧使節写真 竹	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
448	古写真 2098	文久遣欧使節写真 竹	1 枚	マウント作製	米倉乙世、桐原瑛奈、川添愛奈
449	古写真 美写 2878	五百羅漢図 大徳寺臨時全国宝物取調写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
450	古写真 美写 2882	枯木鶴図襖 大徳寺真珠庵臨時全国宝物取調写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
451	古写真 美写 2886	十六羅漢図 大徳寺龍光院臨時全国宝物取調写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
452	古写真 美写 2888	花鳥図襖 大徳寺大仙院臨時全国宝物取調写真	1 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
453	古写真 1391～	東大寺大仏殿山門	22 枚	マウント作製	桐原瑛奈、川添愛奈
454	QA-957	博物館禽譜	3 枚	マウント作製	米倉乙世、川添愛奈
455	QA-1064	御即位部類記	11 冊	こよりの交換	高橋志歩
456	QA-1069	南朝補任	4 冊	ドライクリーニング、綴じ直し	高橋志歩

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
457	QA-1075	座右書《伊勢家座右書》	7 冊	ドライクリーニング、綴じ直し	高橋志歩
458	QA-2452	救飢食品考・拾遺救飢食品考	4 冊	ドライクリーニング、綴じ直し	桐原瑛奈
459	QA-283	五体身分集	3 冊	綴じ紐直し	AF
460	QA-3423	五体身分抄	2 冊	綴じ紐直し	AF
461	QB-9847	医心方（安政版）	30 冊	書見台作製	米倉乙世
462	TA-40	第二十三天聖尊者図軸	1 幅	カビ払い	AF
463	TA-44	花鳥図軸	1 幅	軸木、軸首交換、紐交換	AF
464	TA-164	李白吟行図	1 幅	ドライクリーニング、折れ伏せ、部分補修、フラットニング、軸木、紐新調	(株)修護
465	TA-298	十六羅漢図	10 幅	ドライクリーニング、折れ伏せ、糊差し、フラットニング、吊環新調、鍔調整、軸木交換、掛緒交換	(株)修護
466	TA-385	水禽探魚図軸	1 幅	軸首新調	AF
467	TA-474	湖山論詩図巻	1 巻	八双部新調	AF
468	TA-507	ラマ僧像	1 幅	表装部ほつれ補修	保存修復課
469	TA-511	シャンバラ王ラウドラ・チャクリン像	1 幅	覆布を留める紐設置	AF
470	TA-612	ツォンカバ伝	1 幅	覆布を留める紐設置、軸首固定	AF
471	TA-634	富貴図軸	1 点	八双部補修	AF
472	TA-691	ヴァジュラバイラヴァ像	1 面	ドライクリーニング	AF
473	TA-693-77	ナンディーに乗るシバとパールヴァティー	1 枚	マウント作製	米倉乙世
474	TA-710	白色ターラー菩薩像	1 幅	覆布補修、展示具作製	米倉乙世、保存修復課
475	TA-184	書画合璧冊	1 冊	糊差し、布帙補強	AF
476	TA 寄託	慶豊図巻	1 巻	巻紐付け替え	AF
477	TB-913	行書格物篇	1 幅	表装上部糊差し、補強	AF
478	TB-1583	隸書「槐根小築」額	1 面	展示金具取り付け	AF
479	TB-1600	◎保寧寺賦跋	1 幅	ドライクリーニング、折れ伏せ、フラットニング、紐・軸木新調、中性紙製太巻添軸作製	(株)修護
480	TG-1839	粉彩魚文輪花形皿（ベンチャロン）	1 枚	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
481	TG-1840	粉彩人物文碗（ベンチャロン）	1 口	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
482	TG-1841	粉彩人物文碗（ベンチャロン）	1 口	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
483	TG-1842	粉彩花卉文有蓋杯（ベンチャロン）	1 合	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
484	TG-1843	粉彩花文有蓋碗（ベンチャロン）	1 合	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
485	TG-1844	粉彩花文有蓋碗（ベンチャロン）	1 合	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
486	TG-1845	粉彩人物有蓋壺（ベンチャロン）	1 合	ラベル除去、ウェットクリーニング、付着物の除去	保存修復課
487	TG-1846	粉彩人物有蓋壺	1 組	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
488	TG-2493	玳瑁天目 附 黒漆台のうち黒漆台（天目台）	1 口	損傷部確認	足立収一、保存修復課
489	TI-466	金更紗「クリシュナを探すゴビたち」	1 枚	マウント作製	米倉乙世、AF

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
490	TI-567-1	クッションカバー茶色地段幾何学文様浮織・綴織	1 枚	ドライクリーニング	高橋志歩
491	TI-591	黒地メダイヨシ像文様更紗（仏手）	1 点	補修、加湿整形	山崎真紀子
492	TJ-488	緑釉龍文滴水瓦	1 個	ウェットクリーニング、ラベル除去、ラベルフラットニング、充填、補彩	保存修復課
493	TJ-1976	二色彩文水差	1 個	ドライクリーニング、破片接着、破断面保護、補填、補彩	(有)武蔵野文化財修復研究所
494	TJ-4642	唐草文滴水瓦	1 個	ラベル除去、レーザークリーニング、保護フィルム作製、補彩	足立収一、保存修復課
495	TJ-4643	龍文軒平瓦	1 個	ラベル除去、レーザークリーニング、ウェットクリーニング、充填、補彩	保存修復課
496	TJ-4645	在銘滴水瓦	1 個	レーザークリーニング、ウェットクリーニング、保護フィルム作製、ラベル除去	保存修復課
497	TJ-5499-91	獣面文軒丸瓦	1 個	保護フィルム作製、レーザークリーニング	保存修復課
498	TJ-5499-94	唐草文軒平瓦	1 個	レーザークリーニング	保存修復課
499	TJ-5499-98	雲文軒平瓦	1 個	保護フィルム作製、レーザークリーニング	保存修復課
500	TJ-5499-164	黄釉龍文軒丸瓦	1 個	ラベル除去、ウェットクリーニング	保存修復課
501	館史 2521	東京帝室博物館列品臺帳第壹編 天産部第五拾九冊 鑛物區 本邦産化石	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
502	館史 2526	東京帝室博物館列品臺帳第壹編 天産部第六拾四冊 外國産化石	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
503	館史 2527	東京帝室博物館列品臺帳第壹編 天産部第六拾五冊 鑛物區 製品類之一	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
504	館史 2528	東京帝室博物館列品臺帳第壹編 天産部第六拾六冊 鑛物區 製品類之二 模型類、器具類、圖書類	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
505	館史 2530	東京帝室博物館列品台帳第貳編 天産部第貳冊 動物區 鳥類之一	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、表見返し修復、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
506	館史 2531	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部第參冊動物區 鳥類之二	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、裏見返し修復、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
507	館史 2532	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部第四冊動物區 鳥類之三	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙と中身の再接続、裏見返し修復、新規背表紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity

No	列品番号	名称	員数	処置内容	処置担当者
508	館史 2533	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第五冊動物區 鳥類之四	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、新規背表紙貼り込 み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
509	館史 2534	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第六冊動物區 鳥類之五	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、裏表紙ボード折れ 補正、表見返し折れ補強、新規背表 紙貼り込み、ノド布修復、見返し貼 り戻し	(株) Conservation for Identity
510	館史 2536	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第八冊動物區 鳥類之七	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、新規背表紙貼り込 み、ノド布修復、見返し貼り戻し、 表紙ボードの補正	(株) Conservation for Identity
511	館史 2537	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第九冊動物區 爬虫類、兩棲類／被囊類 棘皮類	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、新規背表紙貼り込 み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
512	館史 2538	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第十冊動物區 魚類一	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、新規背表紙貼り込 み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
513	館史 2541	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第十叁冊動物區 軟體類之一	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、新規背表紙貼り込 み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
514	館史 2553	東京帝室博物館列品臺帳第貳編 天産部 第貳拾五冊動物區 模型類、圖書類	1 冊	ドライクリーニング、革に HPC、 保革油塗布、解体、綴じ直し、表紙 と中身の再接続、新規背表紙貼り込 み、ノド布修復、見返し貼り戻し	(株) Conservation for Identity
515	図書 053-9 (10037595～ 10037630)	一代経律論釋法數 68 卷目録 2 卷	36 冊	ドライクリーニング、綴じ糸交換、 台箋接着	高橋志歩
516	図書 053-7 (10037566～ 10037574)	神僧傳	9 冊	ドライクリーニング、綴じ糸交換	高橋志歩

*「AF」は、東京国立博物館学芸研究部保存修復課に常駐の修理技術者（アソシエイトフェロー）である大山龍顕を示す。

*「保存修復課」は、当館職員の修理技術者である野中昭美を示す。

*保存修復課およびアソシエイトフェローが行なった対症修理のうち、特別展にかかわる作業件数はリストに含まれていない。

* AF が作製した旧美術品台帳背表紙用保存箱の件数はリストに含まれていない。

* 図書における列品番号の箇所は、「請求記号（図書 ID）」を示している。

*「ドライクリーニング」とは、溶剤を用いない刷毛やブラシによるクリーニングを示す。

List of Works Conserved in Fiscal Year 2021

● = National Treasure ◎ = Important Cultural Property

No.	Object Name	Creator/Provenance	Date	Donor
Japanese Paintings				
1 A-1	● The Bodhisattva Fugen		Heian period, 12th century	
2 A-11090	◎ Genre Scenes of the Twelve Month		Muromachi period, 16th century	
3 A-12347	Fans	By Katsushika Hokusai	Edo period, 1849	
Japanese Calligraphy				
4 B-3171	Part of the "Charms of Autumn" Section of <i>Collection of Japanese and Chinese Poems to Sing</i> (One of the "Yamashiro Fragments")	Attributed to Fujiwara no Sadayori	Heian period, 12th century	
5 B-3172	Part of the "Charms of Spring" Section of <i>Collection of Japanese and Chinese Poems to Sing</i> (One of the "Yamashiro Fragments")	Attributed to Fujiwara no Sadayori	Heian period, 12th century	
Japanese Textile				
6 I-335	Buddhist Ritual Banner	Passed down at the Shōsōin Repository	Nara period, 757	
Japanese Archaeology				
7 J-8897	Sword with a Squared Pommel	Found in Sakurai City, Nara	Nara period, 8th century	Gift of Mr. Yamamoto Morimitsu and Mr. Okabe Yoshio
8 J-8898	Iron Sheet	Found in Sakurai City, Nara	Nara period, 8th century	Gift of Mr. Yamamoto Morimitsu and Mr. Okabe Yoshio
9 J-22780	Deep Vessel	Found at the Kawanishi Elementary School Site, Tochigi	Jōmon period, 3000–2000 BC	Gift of Mr. Yasuda Rokunosuke
10 J-23174	Jar	Found at the Kawanishi Elementary School Site, Tochigi	Jōmon period, 3000–2000 BC	Gift of Mr. Yasuda Rokunosuke
11 J-23765	Pot	Found at the former Machimura Farm, Hokkaido	Satsumon period, 8th century	Gift of Mr. Kōno Hiromichi
12 J-21576	Tomb Sculpture (<i>Haniwa</i>): Man Wearing a Cap	Found in Mo'oka City, Tochigi	Kofun period, 6th century	
13 J-38859-16	Pot with a Curved Rim	Found at the Funahashi Site, Osaka	Kofun period, 3rd–4th century	Gift of Mr. Tamura Atsumasa
Asian Paintings				
14 TA-40	The Twenty-Third Arhat		Goryeo dynasty, 1235	Gift of Mr. Oku Yoshiaki
15 TA-694	Five Horses	By Li Gonglin	Northern Song dynasty, 11th century	

No.		Object Name	Creator/Provenance	Date	Donor
Asian Calligraphy					
16	TB-1215	Letter in Cursive Script	By Daoyuan Wenxin	Ming dynasty, 1368	Gift of Mr. Takashima Kikujirō
17	TB-1458	Three Works of Calligraphy in Running Script	By Mi Fu	Northern Song dynasty, 11th–12th century	
Asian Lacquerware					
18	TH-388	Desk with a Dragon among Clouds		Joseon dynasty, 19th century	Gift of Mr. Maruoka Muneo
Asian Textile					
19	TI-421	◎ Monk's Robe with Vines and Flowering Plants	Reportedly used by Shun'oku Myōha	Yuan–Ming dynasty, 14th century	
Asian Archaeology					
20	TJ-2976	Short-Necked Jar	Found at the Lujiatun Brick Tomb No. 3, Yingkou City, Liaoning Province, China	Eastern Han dynasty, 2nd century	
21	TJ-2979	Covered Container	Found at the Lujiatun Brick Tomb No. 3, Yingkou City, Liaoning Province, China	Eastern Han dynasty, 2nd century	
22	TJ-2981	Covered Container	Found at the Lujiatun Brick Tomb No. 3, Yingkou City, Liaoning Province, China	Eastern Han dynasty, 2nd century	
23	TJ-3006	Lid	Found at the Lujiatun Brick Tomb No. 3, Yingkou City, Liaoning Province, China	Eastern Han dynasty, 2nd century	
24	TJ-5824	Cooking Stove	Found at the Lujiatun Brick Tomb No. 3, Yingkou City, Liaoning Province, China	Eastern Han dynasty, 2nd century	

令和 5 年 3 月 31 日発行

令和 3 年度

東京国立博物館文化財修理報告 23

Tokyo National Museum
Annual Conservation Report, Fiscal 2021

編集・発行 東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9

電話 03-3822-1111 (代表)

製作 精興社

©2023 Tokyo National Museum

